

講義等の内容

理学療法学科の講義等の内容

授業科目名	講義等の内容
人間共生論	<p>人間は太古の昔以来、「独り立ち」することを「大切なこと」として今日まで生きてきた。独り立ちした個人、家族、集団、国家。このことはこれからの 21 世紀においても変わることなく、「大切なこと」として求め続けられていくことであろう。しかし人間は本来、「共に生きる」存在である。人間は太古の昔以来、人々と「共に生きる」こと、自然と「共に生きる」ことによつてはじめて「独り立ち」することも可能であったのである。しかるに人間は「独り立ち」することの魅力に目がくらみ、自らが「共に生きる」存在であることを忘れてしまった。この人間の自らの存在の忘却が、「人間と自然」、「人と人」との関わりの問題など、現代社会の根本的な諸問題を生み出す根源となった。これらの今日的な焦眉の課題を根本的に検討し、「独り立ち」という人類の永遠の願いを一人一人の人間が見事に成就するには、人間が本来「共に生きる」存在であることを改めて思い起こさなければならない。「共に生きる」ことを基盤に据えて「独り立ち」することを問い直しすること。これが 21 世紀に生きるわれわれの課題なのではなからうか。「人間共生論」はこの様な問題意識のもとに展開されていく。</p>
人間共生社会論	<p>現代人は、様々な領域で、異質なものととの共生を求められている。自然との共生、地域社会との共生、高齢者とその他の世代との共生、障害者と健常者の共生、男女の共生、外国人との共生などである。本講義では、共生とは何であるかという問題意識を踏まえた上で、これまでの固定的な自然観・人間観を問い直し、人間としての自己実現や社会人としての在り方を考える。そして、人と自然が共生する社会の姿、並びに、立場の違う者同士が共生する社会のあり方について考察していく。</p>
心理学概論	<p>理学、作業、臨床等対人専門領域の専攻を旨とする学生の基礎教養となる心理学の概説である。心理学の歴史をはじめ、心理学各分野の基礎理論・代表的トピックおよび人間と心理学の関係について、全般的・総論的な理解を旨とする。</p>
文章作法	<p>文章表現に必要な基礎知識・技術を学ぶ。特に、理科系の作文技術を重点に置き、論理的な文章かつ分かりやすく簡潔な文章を目的とする。メモ・レポート・記録文・説明文・報告文・論文など、大学や職場など実際の生活の中で必要な文章を書く方法を身につける。また、内容のある文章を書くために一般教養となる、優れた文章や新聞記事などに多く触れる。</p>

授業科目名	講義等の内容
生命科学（生命倫理）	<p>本講義では、私たち人間自身を生物学的に知ることを目的として、特に保健医療技術学部の学生が、これからの世の中で活躍していく上で、有用と考えられる分野を精選して解説する。可能な限り、最近のトピックスを導入として、その背景から基礎までを解説する方向で展開していくことにしたい。後半は、古くからある多様な死生観を踏まえ、病者、家族も含めて、人工授精、体外受精、臓器移植や死、安楽死、尊厳死などの現状と倫理的課題を考える。障害者の尊厳についても触れる。生命と人格の尊厳に基づく愛、性、幸福、死の在り方を見つめ、自然環境を含めた生命あるすべてのものへの関心を高めていく。</p>
人間の歴史	<p>旧世界における古代文明の興亡について論述する。各文明に通用あるいは特有の重要テーマを掘り下げたい。(1)石器時代、(2)文明の起源（メソポタミア文明・エジプト文明・インダス文明・中国文明）、(3)金属の歴史、(4)文字の歴史、(5)死と墓（古代エジプトの死と墓・ギルガメッシュ叙事詩にみるシュメル人の死）、(6)馬と戦争、(7)帝国の時代（最古の帝国アケメネス朝ペルシャ・アレクサンドロスの東征とヘレニズム世界の成立・地中海帝国ローマと東方・匈奴と秦漢帝国）、(8)古代史探求の方法</p>
生物学	<p>生物学は具体的な生命の科学であり、特に人に関わる医療・福祉職にとっては、専門基礎分野科目（解剖学・生理学・病理学など）を学ぶためにこの基礎科目を修得しておくことが大切である。本科目はこれまでに生物の履修経験のない学生についても考慮し、生物学の基礎知識を整理して、講義を行う。</p>
化学（無機・有機）	<p>中学校、高等学校で学んだ化学の知識を基に、医学の専門分野を理解するのに必要な化学知識を習得することを目的とする。以下に授業内容を示す。1)物質の構造では原子と分子、原子の構造。2)物質の状態では気体、液体、固体、溶液、コロイドについて。3)物質の変化では、化学変化、化学反応の種類、反応速度、化学平衡について。4)無機化学では元素の分類、非金属、金属の化学、配位化合物、原子核反応について。5)有機化学では有機化合物を構成する元素、構造、特性、有機化合物の官能基、生体の化学成分について。</p>
物理学	<p>医療の世界においても、治療に際して起きる現象あるいは治療的技術の多くの部分は科学的知識を基盤として成り立っている。本講義では応用できる物理学の知識を得ることと科学的な思考のための方法論を修得することを目標として講義を行う。</p>

授業科目名	講義等の内容
統計学	<p>本講義の目標は、統計の基礎知識を与えると同時に、実際の問題解決にあたって、いかに統計を用いて問題を明らかにしていくか、応用力を身につけることを目標とする。講義の内容は、①統計の基礎、標本抽出、②平均値、統計図表、度数分布、③正規分布・正規確率、④分散、⑤推定と検定、⑥質的データの扱い、⑦相関関数・将来予測、⑧疫学調査法、⑨統計演習である。</p>
保健体育学	<p>生涯スポーツの時代における体育・スポーツ活動の意義について理解し実践できる能力を養う。そのために、体育スポーツに関する科学的領域から行政・制度的領域まで幅広く学習する。</p>
保健体育実習	<p>本実習の目標は、各種の運動を実践し、運動技能を高めるとともに体力の維持、向上を図り、かつ生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力を身につける。実習の内容は、1. バスケットボール、2. バレーボール、3. ホッケー、4. ミニサッカーなどを実習する。</p>
医療経済学	<p>今日、医療については、医療費増大や医療過誤などいろいろな問題がある。しかし、それを医療の世界のみで考えるのではなく、別の視点から眺めてみると、なぜこういうことが起きるのかという分析ができ、その問題点や解決策が見えてくることがある。そこで、本講義では医療に関する様々な問題点を「経済学」という視点から捉え、講義を行う。</p>
人間関係論	<p>人は生まれつき、社会的な生き物である。客観的な判断をしようとするときでも自分に思いをはせるときでも、気づかないうちに他者は私たちに影響を与えている。一方、私たち自身も、意識的・無意識的に他者に特定の印象をもたれようとしたり、他者とうまくやっっていこうとしたりする。この講義では私たちのこうした社会的な性質を理解したうえで、具体的な人間関係がどのように営まれているか概説する。また、個々の人間関係を越えた集団が私たちの人間関係にどのような影響を与えているかについても概説する。(1)社会的生物としての人間、(2)人と世界を理解する、(3)個人と社会をつなぐ自己、(4)社会的影響、(5)様々な人間関係、(6)集団の心理</p>

授業科目名	講義等の内容
人間関係論実習	<p>コミュニケーションは単に通信、交通、意思の疎通の手段のみに留まらず、人格そのものであると考える。自分の意思を伝達するには、会話だけでなく、ボディランゲージ、フェイスランゲージ、服装、ヘアースタイル、メイクアップなど全てを含めた個人の表現方法を用いる。社会人として不可欠な知識と基本的なビジネスマナーを修得し、自己表現力を磨き、企業内の人間関係をスムーズに保つためのコミュニケーション能力を身につけるのは、自分自身を高めるための必須条件である。これらについて解説し実習を行う。</p>
社会貢献実習	<p>地域を基盤とする実践活動に参加し、その活動の趣旨、企画・運営・利用者の特徴とニーズ、今後の課題などについて理解する。各専門分野の枠を超え、集団または個人に対する各種地域サービスの実験を体験することにより、他職種間での相互理解と協力の必要性を学ぶ。その活動状況や定期的に提出を要請されるレポートなどを総合的に評価して、成績評価を行う。</p>
英語 I	<p>This class is designed to motivate the students in their English study, encourage confidence in their English ability, review basic structures, and give students the tools to express themselves. Speaking, listening and reading skills are practiced, all with an emphasis on interaction and communication. Students are encouraged to be active participants in their own learning process.</p> <p>英語学習に対するモチベーションを与える。各自の語学能力に自信もたせる。基礎的な構文の復習、自己表現の手段としての英語学習を行う。コミュニケーションに重点をおいて、話す・聞く・読むという三つのスキルを練習する。学生の積極的な参加姿勢が期待される。</p>

授業科目名	講義等の内容
英語Ⅱ	<p>This class is designed to motivate the students in their English study, encourage confidence in their English ability, develop the ability to express opinions, review basic structures. Discussion, listening and reading skills are practiced, all with an emphasis on interaction and communication. Students focus more on functions and language to help convey feelings and opinions. Students are encouraged to be active participants in their own learning process.</p> <p>英語学習に対するモチベーションを与える。各自の語学能力に自信もたせる。意見を発表する能力を伸ばす、基礎的な構文の復習を行う。コミュニケーションに重点を置いて、ディスカッション・リスニング・リーディングスキルを練習する。特に機能的表現、感情や意見を伝えるための表現に焦点を合わせる。学生の積極的な参加姿勢が期待される。</p>
医学英語	<p>本講義の目標は、英文の専門論文を読解し、要旨を報告することができることを目標とする。また、接頭接尾語や専門用語を記憶することと on line の文献データベースを利用して文献検索ができることも目標とする。講義の内容は、1. 接頭接尾語、2. 文献の読み方、3. 文献抄読、4. 文献検索、5. 解剖学用語・運動学用語を中心に行う。</p>
海外異文化理解・研究Ⅰ	<p>この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1 Semester、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で正規の授業を履修する留学（正規学部留学）で、外国での留学中の学習状況および帰国後、留学先での興味・関心のあるテーマを各自が設定し調査研究を行ったレポートを総合的に評価する。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。</p>
海外 Semester 語学研修Ⅰ	<p>この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1 Semester、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で語学研修プログラムを履修する留学（語学研修留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。</p>

授業科目名	講義等の内容
海外異文化理解・研究Ⅱ	この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1 Semester、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で正規の授業を履修する留学（正規学部留学）で、外国での留学中の学習状況および帰国後、留学先での興味・関心のあるテーマを各自が設定し調査研究を行ったレポートを総合的に評価する。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外Semester語学研修Ⅱ	この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1 Semester、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で語学研修プログラムを履修する留学（語学研修留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外語学（英語）研修Ⅰ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（英語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外語学（英語）研修Ⅱ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（英語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。

授業科目名	講義等の内容
海外語学（該当英語外）研修Ⅰ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（該当語学短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外語学（該当英語外）研修Ⅱ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（該当語学短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外語学（中国語）研修Ⅰ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（中国語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外語学（中国語）研修Ⅱ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（中国語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
情報科学	本講義の目標は、パーソナルコンピュータを用いて、学習上必要な文書の作成、データ分析、プレゼンテーションの基礎技能を身につける。講義の内容は、①オリエンテーション・基礎知識、②医療情報学・文献検索を中心に行う。

授業科目名	講義等の内容
情報演習	<p>本講義の目標は、パーソナルコンピュータを用いて、学習上必要な文書の作成、データ分析、プレゼンテーションの基礎技能を身につける。講義の内容は、①MS-Word 講義・演習、②MS-Excel 講義・演習、③MS-PowerPoint 講義・演習である。</p>
解剖学 I	<p>本講義の目的は、理学・作業療法学を学ぶ上で基盤知識となる人体構造を系統的に理解し習得することである。解剖学 I では、とくにリハビリテーションにとって重要となる運動器系を中心にその調節系統である神経系ふまえて学習する。内容は、①解剖学総論、②骨格系、③筋系を講義する。また、机上の知識だけにならぬように、適宜、骨格標本など人体解剖モデルの観察も行なって理解を深めた学習にする。</p>
解剖学 II	<p>本講義の目的は、理学・作業療法学を学ぶ上で基盤知識となる人体構造を系統的に理解し習得することである。解剖学 II では、からだの各器官を調節する神経系と、からだを栄養する循環器系を中心に、人体内部にある内臓系全般の基本的な成り立ちと構造について学習する。内容は、①神経系、②循環器系、③呼吸器系、④消化器系、⑤泌尿器系、⑥生殖器系、⑦内分泌系、⑧感覚器系について講義をする。講義中には適宜、人体解剖モデルなどの観察を導入し、臓器の実体をイメージできるように学習する。</p>
解剖学実習	<p>本実習の目標は、解剖学 I・II の講義で学習してきた系統解剖学的な知識を人体解剖モデルおよび動物解剖標本の観察によってさらに補足・深化させることである。とくに、人体各器官の局所解剖学的な位置関係を中心に学習する。内容は、①体幹の解剖、②頭頸部の解剖、③上肢の解剖、④下肢の解剖、⑤中枢神経系の解剖を行なう。</p>
生理学 I	<p>本講義の目標は、生理学的な考え方で生体に対処できる人を作ること。具体的には生理学を理解し、生理学的な考察のできる計画を立てられ、得られた結果を生理学用語を用いて表現できることを目標とする。刺激と興奮、末梢神経細胞の分類と特性、接合部と受容器、脊髄反射・脊髄反射と脊髄ショック、脳幹と小脳・視床下部と大脳辺縁系、視覚と聴覚、感覚投射系、皮膚感覚と平衡感覚、運動系、高次中枢機能を講義する。</p>

授業科目名	講義等の内容
生理学Ⅱ	<p>本講義の目標は、生理学的な考えで生体に対処できる人を作ること。具体的には生理学を理解し、生理学的な考察のできる計画を立てられ、得られた結果を生理学用語を用いて表現できることを目標とする。さらに、PT・OTとしての利用応用の立案が出来るようになることを希望する。骨格筋、呼吸、心臓、循環、体温調節、尿生成、排泄、内分泌、作業と疲労、血液・消化について講義する。</p>
生理学実習	<p>本講義の目標は、生理学的な考え方で生体に対処できる人を作ること。具体的には生理学を理解し、生理学的な考察の出きる計画を立てられ、得られた結果を生理学用語を用いて表現できることを目標とする。なお、付随して口演、論文発表による返答法など学術活動の基本的な方法を修得して、PT・OT学会活動に備えるもう一つの目的がある。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(1 石田行知) 活動電位、容積導体、呼吸を講義し、追加発展実験および実習報告会を行う。</p> <p>(2 坂井 泰) 感覚(1)、感覚(2)、H波、運動負荷を講義し、追加発展実験および実習報告会を行う。</p>
生化学	<p>生化学とは、生命現象を科学的手段を用いて解明する学問であり、私達の身体がどのような物質から成り立っていて、それらの物質が細胞、組織あるいは臓器などの生体システムの中でどのような機能を営んで生命を維持しているのか、すなわち、生体を構成し、生命活動を維持する基本物質の構造と機能ならびに代謝について学習する。</p>
運動学	<p>本講義の目標は、解剖学、生理学などの基本的知識に基づき、身体運動の基本事項について学ぶ。運動器を中心とした生体の構造と機能に関する内容をベースに、ヒトの運動に関する学習を行う。特に、四肢・体幹の関節については、解剖学的構造だけでなく機能解剖を学ぶ。また、姿勢・運動・動作の基本的分析方法について学ぶ。さらには、運動学習に関する基本概念について学ぶ。</p>
人間発達学	<p>目の前にいる対象者は突然今の状態にあるわけではなく、発達の過程を経て存在している。そこで、人間理解の基礎として、生涯発達の視座から、発達の一般法則および個人的特性の形成について、生理的・心理的・社会的に発達の推移を概観し、理解を深める。</p>

授業科目名	講義等の内容
病理学	<p>疾病の本態を解明する学問である。疾病病変の共通の変化を論じ、病態生理および病変の主要因について系統的に把握、理解する。各論では主な疾病についてその成因、臓器変化ならびに疾病の診断や病因・病態の解明に必要な病理学的検査法について教授する。この学習を通して疾病の本態を理解し、医学・医療の基本的知識・思考が習得されることを目標とする。</p>
リハビリテーション医学	<p>本講義の目標は、リハビリテーション医学の特質について理解すること。(他の治療医学と異なり「障害」を対象とし、「復権」を目標とする。)代表的な疾患分野についてその生涯学、リハビリテーションアプローチを理解することである。1. リハビリテーション医学総論、2. 小児(CPを含む)疾患のリハビリテーション、3. 神経筋(筋ジスを含む)疾患のリハビリテーション、4. 内部障害のリハビリテーション、5. 脳(脳卒中を含む)疾患のリハビリテーション、6. 関節(RAを含む)疾患のリハビリテーション、7. 脊髄(脊髄損傷を含む)疾患のリハビリテーション、8. 痴呆、その他について講義する。</p>
臨床医学内科	<p>臨床医学内科のあり方を診断方法、治療総論をとおして講義する。①総論、②呼吸器疾患・呼吸器疾患の治療、③感染症、④消化器疾患、⑤腎・泌尿器、⑥C型肺炎と肝癌の治療、⑦妊婦・分娩、⑧膠原病・免疫不全、⑨代謝性疾患・内分泌、⑩循環器疾患総論、⑪循環器疾患各論、⑫血液疾患について理解を深める。</p>
臨床医学整形外科	<p>本講義は、「整形外科とは」「整形外科的診断法検査法」「整形外科的治療法」「手関節と手指」「膝関節・下腿・足・脊椎・脊髄」「四肢切断・スポーツ整形・慢性関節疾患」「リウマチと類縁疾患感染症」「代謝内分泌・骨腫瘍・末梢神経損傷」「脳性麻痺・筋ジス」「骨疾患・骨端症・骨壊死・四肢循環障害・障害者スポーツ」「手術療法・軟部組織損傷」「骨・関節損傷・骨折・脱臼・捻挫」「肩関節・上腕」について行う。</p>
臨床医学精神科	<p>本講義の目標は、臨床精神医学全般の概括的理解と精神障害者のよりよき理解にある。「総論」「統合失調症」「躁うつ病」「神経症・人格障害」「薬物依存」「てんかん」「精神科治療学」「老人・器質性精神障害」「児童・思春期・青年期」についての講義を実施する。</p>

授業科目名	講義等の内容
臨床医学小児科	臨床医学小児科全般にわたる知識を得る。特に、リハビリテーション関係者に必要な小児神経系の疾患については詳細な解説を加え、高いレベルの知識を得るように講義を行う。成長発達、周生期障害、先天性代謝異常、遺伝疾患、脳性麻痺、重症心身障害、血液、悪性腫瘍、循環器、呼吸器、感染症、免疫、アレルギー・腎疾患、MR、自閉症、栄養、消化器・内分泌、代謝、神経筋疾患、てんかんについて講義する。
臨床医学神経内科	本講義の目標は、神経疾患患者の診察法を理解すること、主要な症状と病変との関連を理解すること、主要な神経疾患について理解することである。「1 神経学総論、神経疾患の病歴」「2 神経学的診察法」「3 症候学（運動障害）」「4 症候学（感覚障害）」「5 症候学（自律神経障害）」「6 症候学（高次脳機能障害）」「7 神経疾患の合併症」「8 画像診断」「9 その他の補助診断法」「10 脳血管障害」「11 頭部外傷、脳腫瘍」「12 パーキンソン病」「13 脊髄小脳変性症」「14 運動ニューロン疾患」「15 脊髄疾患」「16 ニューロパシー（末梢神経疾患）」「17 ミオパチー（筋疾患）」「18 痙攣、てんかん、めまい」について講義する。
老年学（脳外，泌尿器）	<p>間もなく超高齢化社会を迎える日本において、高齢者の医療や福祉はわが国における大きな課題の一つである。高齢者は生理的老化現象に加えて種々の疾患に起因する病的老化が併存していることを理解し、適切な対応のできる医療職を目指す。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(39 森田 隆) 高齢者の日常生活で問題となりやすい泌尿器系の変化について生理的老化と病的老化を中心として学習し、理解を深める。</p> <p>(17 岩淵 聰) 高齢者に多い脳血管障害や高次脳機能障害を含めて、脳の生理的変化と病的変化について学習し、理解を深める。</p>
薬理学	現代社会においては「無病息災」ではなく、「一病息災」と言われる。また医療の現場で関わる対象者は何らかの薬物を服用していることが多い。そこで、薬物の体内動態と主作用・副作用の両面から薬物と生体との相互作用について学習し、薬物を主たる治療手段としない医療職の仕事に役立つ基礎および臨床薬理学の知識を習得する。
保健医療技術概論	健康とは何か、病むとはどういうことかを理解し、国内外における保健・医療・福祉の歴史、現況を学び、併せて保健・医療・福祉の諸問題や展望について考える。

授業科目名	講義等の内容
リハビリテーション概論	<p>リハビリテーション医療の基本を身につけるため定義、歴史、理念をとらえる。チームの概念、チーム構成と役割、関係法規と保健医療福祉行政について認識する。また障害の分類・評価・アプローチについて把握する。世界保健機構でのICF (International Classification of Functioning, Disability and Health) 定義に基づき人間の生活機能と障害の分類法を、QOLとノーマライゼーションについての概念とともに理解する。同時に理学療法・作業療法の基礎概念についても理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(22 川手信行) リハビリテーション医療、障害分類、チーム医療、理学療法、作業療法以外のチームの役割、関係法規、行政について</p> <p>(3 福井 勉) リハビリテーションにおける理学療法の役割</p> <p>(45 長崎重信) リハビリテーションにおける作業療法の役割</p>
感染・消毒	<p>病原生物の特徴やその病原性、宿主の生体防御機構、および感染の成立過程や感染防止に関する知識を身につけ、医療の現場における感染予防の原理と重要性について理解する。また、病院や医療施設、医療機関における感染や安全管理の内容を含めたリスクマネジメント等に関して講義し学生に十分理解をさせる。</p>
病人の心理	<p>何らかの疾病や障害を有した場合、人はいつまでこの状態が続くのかという精神的に非常に不安定な状態におかれることになる。そこで、健康破綻がどのような心理的影響をもたらすか、また病人を取り巻く家族の心理について理解し、医療職として如何にあるべきかについて学習する。</p>
栄養学	<p>競技者にとってはより高いパフォーマンスを得るために、生活習慣病患者にとっては日々の生活を安定的に送るために、またどちらでもない人にとっても健康に日々を過ごすためには「栄養」は重要である。そこで、生体を構成する栄養素と健康体を維持するための栄養素の働きを理解し、食事療法の基礎知識も含めて学習する。</p>

授業科目名	講義等の内容
公衆衛生学	<p>集団を対象にした、健康の保持、増進、障害・疾病予防等を学ぶ。これらの成り立ち、仕組み等を熟知し、その対処法を学ぶ。これらは自身の実生活で活用でき、しかも医療チームの一員として活用、指導できるまでを求める。そのためには対象、疫学、人口静態、人口動態（出生、死亡等）、環境衛生（空気、上下水等）、学校衛生、労働衛生、環境保全、食品衛生、母子保健、感染症予防、精神保健、老人保健、社会保障・福祉・医療、保険等にわたり、過去・現在・将来を学ばなければならない。</p>
理学療法学概論	<p>理学療法学を学ぶオリエンテーションに位置づけられる。理学療法学科に入学した学生個々の志望理由を大事にしながらさらに動機付けを行い、将来、医療人となる目標を明確化する。専門知識が無い段階でのいわば外から見た理学療法の世界での印象を記録にとめる。理学療法の臨床事例を例に挙げ、先入観との対比を行う。講義最終段階では、患者と触れ合う機会を設け、「初心」における自らの理想像を描くこと、理学療法士としての基本的な価値観を培うことを目的とする。</p>
理学療法学概論演習	<p>理学療法学概論に引き続き、理学療法の総合的な理解と障害者を対象とする理学療法士としての基本的な価値観を深める。理学療法対象疾患ごとにグループを作り、一般的に行われている理学療法を発表する形式とする。その際に、不明確な点あるいは現状に対する疑問を記録にとめ、興味のある分野について、ある程度浮き彫りにする。しかしながら、理学療法の分野の広いことを知り、2年次からの専門分野の位置づけを確認することを目的とする。</p>
理学療法管理学	<p>医療・福祉・保健・介護など、それぞれの分野または施設で理学療法を効果的・効率的に実施するためには、個々の理学療法技術に加えて、それぞれの分野の動向を知り、組織や職務の目的にそって人、物、情報、実績などをマネジメントする必要がある。講義では自立した理学療法士の養成を目標に、関連分野の動向、組織とマネジメント、問題解決法の基本的事項を理学療法士の職場を念頭に学ぶ。後半は事例検討を行い、実践的な問題解決能力を養う。</p>
理学療法研究法	<p>研究は理学療法の発展に欠かせないものである。臨床における疑問や経験を研究としてまとめ、その結果を理学療法士や関連職種に対して発表するには、一定のプロセスを必要とする。講義では、研究課題の選定、文献検索、研究方法、統計的手法、研究論文の作成・発表に関する基本事項について学習する。また、教育的な文献の検討を通して、研究に対する動機付けと文献を批判的に読む態度の育成を図る。</p>

授業科目名	講義等の内容
筋機能学	理学療法の個別的な治療の対象として骨格筋がある。骨格筋の機能には筋収縮力の発揮、筋力の維持(筋持久性)、伸長性・粘弾性・筋緊張などの筋の性状、筋の痛み、筋の代謝機能などがあり、これらが運動障害に影響を及ぼしている。講義ではこれらの筋の機能に関する基礎的知識を学習し、筋力や筋持久力の改善、筋の伸長性の改善、痛みの緩和など、筋機能改善の理学療法の作用機序について理解を深めることを目的とする。
身体適応科学	理学療法は、身体のもつ刺激または環境に対する適応を前提に、身体に適切な物理的刺激や環境の変化を与え、身体機能の改善を図るという側面をもっている。身体の適応は、生体分子レベル、細胞レベル、組織レベル、個体レベルで生じている。理学療法の作用機序を知り、適切な理学療法の介入を実施するには、身体のもつ適応能力を知る必要がある。講義では、生体分子から個体レベルにおける適応現象の基礎的知識、臓器別および疾患・障害別の身体適応の特徴について学ぶ。
機能診断技術学 I	患者の身体的な問題点を把握し治療を実施するためには、理学療法評価(患者の観察、検査・測定、検査・測定結果の記録とその統合と解釈)、治療到達目標の設定、理学療法プログラムの作成と実施、再評価という理学療法の一連の過程を理解することが必要である。本科目では、理学療法の一連の過程についての基本的概念を学習する。また理学療法評価における体表観察および触診方法の基本的内容について解剖学・運動学を基礎とした講義および実技を行う。
機能診断技術学 II	理学療法評価に必要な個々の検査・測定項目について講義および実技を行う。運動機能の評価項目の一つである関節可動域測定法を中心とした検査・測定方法の理論と技術の習得を目的とする。講義では、解剖学・運動学を基礎として、関節可動域の測定方法などの理論、記録方法について学習する。学生同士の実技を通じて、検査・測定技術および記録方法の習得を目的とする。
機能診断技術学実習 I	理学療法評価に必要な個々の検査・測定項目について講義および実技を行う。運動機能の評価項目である徒手筋力検査法を中心に検査・測定方法の理論と技術の習得を目的とする。解剖学・運動学を基礎として、徒手筋力検査法の理論と技術の習得を目的とする。講義では、解剖学・運動学を基礎として、徒手筋力検査法などの理論、記録方法について学習する。学生同士の実技を通じて、検査・測定技術および記録方法の習得を目的とする。

授業科目名	講義等の内容
機能診断技術学実習Ⅱ	<p>患者の病態を把握し理学療法を実施するためには検査・測定の基本的な技術の習得および検査・測定の統合的な解釈が必要である。本科目では、理学療法評価に必要な個々の検査・測定項目について講義および実技を行う。また、機能診断技術学Ⅰ・Ⅱ、機能診断技術学実習Ⅰを通じて学習した内容を統合的に解釈することを目的に、患者の身体状況の把握が可能となるよう実践的な講義および実技を行う。</p>
臨床運動学	<p>理学療法士として動作を捉えていくために必要な運動学的要素を、当講義において学習する。運動器の解剖・生理学的内容を復習しながら、その病態生理にまで学習を深めていく。</p>
病態運動学	<p>人間の運動は力学的要素、生理学的要素、心理学的要素などの様々な要素を考慮して理解される。運動障害を学習する本科目は、関節別運動学を行う。足・膝・股関節の下肢病態運動、手・肘・肩関節の上肢病態運動、及び頸・胸・腰の脊柱病態運動を対象とする。学生の中から身体の非対称性を簡単に評価し、その動きに対し、担当教員が理学療法的介入により動きを変化させ、その理由を考える。理由を考える際に、既知の運動学を基礎とした論理性を身につけさせることを目的とすることにより理学療法の科学的根拠を理解することを目的とする。</p>
動作分析学	<p>理学療法において「トップダウン」式で評価を行うためには対象者の呈している動作を分析できることが必須である。そこで、理学療法における動作分析の意義と方法について理解する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(4 望月 久) 総論、運動・動作分析の学習を臨床に結びつけるため、ビデオや模擬モデルを教材に、脳卒中片麻痺、脊髄損傷、筋疾患、関節リウマチなど代表的疾患患者の動作分析を行い、疾患による動作上の特徴を理解し、治療展開への導入とする。</p> <p>(8 山崎 教) 理学療法士として動作を捉えていくために必要な運動学的・運動力学的要素を、当講義において学習する。さらには、観察による運動・動作分析の展開(進め方)について学習する。</p>

授業科目名	講義等の内容
動作分析学演習	<p>動作分析学で学んだ基本的知識を基に、実際に動作分析を行う。評価としての動作分析の結果から治療への展開を含めて学習する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(4 望月 久) 臨床的評価を念頭に、基本的障害または主な疾患について、分析機器、簡便な測定器、観察による測定・分析方法を解説し、測定結果の解釈や治療への展開方法を学ぶ。</p> <p>(8 山崎 敦) 機器を用いた運動分析の手法と、そのデータの見かたについて学習する。さらに少人数のグループに分かれて、基本動作に関するデータを実際に取り、その結果について考察を加える。</p>
運動学実習	<p>本講義では、運動の発現やコントロールに重要な感覚や中枢神経と運動との関わりについて学ぶ。また各種姿勢と動作、身体重心の位置や重心動揺、筋活動、関節トルク、床反力など、測定機器から得られるデータの読み方について学習する。さらには、機器を用いた運動学的な計測を小グループごとに実習する。その内容をレポートにする作業過程のなかで、本講義で学んだ知識の整理を行う。</p>
運動解剖学	<p>学生同士で、骨・関節・筋の触診、さらには表層に位置する神経・血管の触診を行うことにより、四肢・体幹の機能解剖について学ぶ。解剖学書によって学んだ知識を、3次元のヒトの身体として捉えられるように学習する。骨表標本から得られる情報を、実際の身体に投影して触察できるようにする。特に骨格筋については、触診するなかで起始・停止、さらには支配神経・髄節を確認して、記憶する作業にまで至る。</p>
運動療法総論	<p>運動療法は理学療法の大きな柱の一つとして位置づけられており、理学療法士にとって必要不可欠な治療技術の一つである。本講義ではこの運動療法の概念についての理解を深め、また、これまでに学習した解剖学、生理学、運動学などの科目と関連づけながら基礎的な運動療法について学習する。</p>
運動療法基礎実習	<p>運動療法総論で学んだことを基にして基礎的な運動療法に関する実習を学生間で行い、運動療法に関する理解を深めるとともに基本技術を習得することを目標とする。また、運動療法で使用する機器についての理解を深め、それらを正しく取り扱い、実際に使用することができる技術の習得を目指す。</p>

授業科目名	講義等の内容
運動器系理学療法学	<p>整形外科領域の主として骨・関節疾患に対する理学療法について講義を行う。骨・関節疾患に対する理学療法を実施するために必要な各疾患の病態生理などについての理解を深め、さらに、それらと各肢体の解剖学や運動学とを関連させながら理学療法評価や治療技術理論について学習する。</p>
運動器系理学療法学実習	<p>運動器系理学療法学で学んだことを基に、主として骨・関節疾患に対する理学療法評価に関する実習を行う。さらに各疾患の病態や障害像を理解したうえで、各疾患に特徴的な運動療法に関する実習を行い、運動器系疾患に対する理学療法の理論と実際を統合することを目標とする。</p>
中枢神経系理学療法学	<p>中枢神経疾患に対する理学療法の理解には、随意運動と神経・筋機能との関連性、神経・筋系の機能回復過程、基礎理論としての運動学習、などの知識が必要である。講義では、まず、これらの基本的知識を整理し、脳血管障害および主な神経・筋疾患の病態と障害像について解説する。そして、各疾患または機能障害をもつ患者に対する理学療法評価ならびにアプローチ方法を、中枢神経系疾患を統一的に理解することを念頭に学習する。</p>
中枢神経系理学療法学実習	<p>中枢神経系理学療法学および動作分析学・動作分析実習で学んだことを基に学生間で実習を行い、中枢神経系疾患に対する理学療法の理論と実際を統合する。また、実習を通して介助やハンドリングの基本的な考え方や方法の習得を図る。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(24 小笹佳史) 脳血管障害の理学療法評価と治療</p> <p>(4 望月 久) 脳血管障害以外の主な神経筋疾患の理学療法評価と治療</p>
呼吸・循環・代謝系理学療法	<p>呼吸困難感や呼吸器疾患にとって日常生活を営む上で障害となる。しかし、調和の取れた身体の姿勢・動作が円滑な呼吸筋の働きを引き出し、呼吸困難感が緩和する。呼吸理学療法では、呼吸不全の評価法、排痰法、呼吸訓練、運動療法などの基礎知識を養うことと、身体運動から呼吸器に介入する方法を理解する。循環器理学療法学では虚血性心疾患などの循環器疾患の急性期および慢性期の理学療法を学ぶ。代謝系の理学療法では主に糖尿病の病態と評価、治療方法について学習する。</p>

授業科目名	講義等の内容
呼吸・循環・代謝系理学療法実習	<p>呼吸・循環・代謝系理学療法で学んだことを基に、呼吸の理学療法では評価法、胸郭リラクゼーション、排痰法、呼吸訓練（呼吸法再調整、呼吸筋力訓練）、運動療法実習を行う。また、循環器・代謝系疾患に対する評価および運動療法の実際を実習しながら行い、循環器疾患に対する理学療法の理論と実際を統合する。また、運動負荷実習を行い、運動負荷に伴う身体反応と評価から運動処方までの実際を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(5 柿崎藤泰) 呼吸、代謝系疾患理学療法</p> <p>(36 古川順光) 運動負荷、循環器系理学療法</p>
発達系理学療法学	<p>発達系理学療法学では正常運動発達とそれと対比した異常運動発達について、運動以外の発達との関連性を踏まえながら講義する。また先天性疾患の中でも運動機能に関わる代表的な疾患を学習する。特に発達障害の理学療法の代表的な対象である脳性麻痺について、その原因、症状、予後、障害に特有な評価方法および理学療法について学習する。さらに従来行われてきた治療方法に加え、両親の関わりを含めた環境設定についても講義する。その他ダウン症、二分脊椎、進行性筋ジストロフィー症などについても講義する。</p>
物理療法学	<p>物理療法とは、電気、温・寒熱、水、光線、力などの物理的エネルギーを生体に応用することによって、その機能の活性化および恒常性の維持・改善などを図ることである。この物理療法を理解するために生理学的基礎および病理学的基礎についてまず学習し、温熱・寒冷療法、電気刺激療法、水治療法、牽引療法などについて、各療法の目的、作用、適応と禁忌、方法と留意点について学ぶ。さらに物理療法を行う際のリスク管理についても学習し、理解する。</p>
物理療法学実習	<p>物理療法学で学習した各療法の目的、作用、適応と禁忌、方法と留意点をふまえ、実習を行う。学生相互にセラピストと被験者役となり計画を立案して治療の練習を行う。温熱・寒冷療法、電気刺激療法、水治療法、牽引療法などの各療法を実際に施行して理解を深める。また、演習の他に各物理療法の適応についてPaper Patientを用いて最適な各療法の選択や運動療法との組み合わせなどの臨床的適用や応用について検討し、物理療法について学習する。</p>

授業科目名	講義等の内容
義肢装具学	<p>義肢および装具は、リハビリテーションを実施する上で欠かすことの出来ない福祉用具であり、障害者等の社会参加を促進するための自立支援用具としても重要である。本講義では、義肢・装具・スプリントの種類・分類・適応疾患等の知識の習得、スプリント製作の技術の習得を目的に講義と実技を実施する。まず、装具学総論、装具の分類・適応・実際、装具装着時の訓練、スプリント製作技法の理解を目的に実技を交え講義を行う。次に、義肢学に関する総論的内容、義肢の分類と適合、種類などの理解を目的に実技を交え講義を行う。さらに、装具の力学構造および下肢装具使用時の歩行分析、主として片麻痺歩行のバイオメカニクスについて講義を行う。</p>
義肢装具学実習	<p>義肢装具学で学んだ知識を基に、より実践的な義肢装具の知識を習得することを目的とする。①疾患や障害と義肢および装具の関連性、②義肢および装具装着時のアライメント・動作の見方、③疾患別の義肢および装具処方例などについて学習する。まず、義肢に関連した講義および実技を行う。義肢のアライメント調整方法、義肢の装着方法、切断者の理学療法、日常生活指導などについて学習する。次に、装具に関連した講義および実技を行う。装具のアライメント調整方法、装具の装着方法などについて学習する。さらに、義肢製作過程の実際、義肢の力学特性と動作との関連、近年の義足パーツの研究開発動向などについて講義を行う。</p>
生活技術学	<p>日常生活を営むために必要な、摂食、排泄、整容、更衣、入浴などの日常生活活動をはじめ、家事動作、移動動作に関して、またそれらの動作を行うための環境について適確に評価し、それに基づいた理学療法および指導を行うための基礎的な知識を習得する。加えて、脳血管障害、脊髄損傷、切断、慢性関節リウマチ、神経系疾患など各疾患における機能障害と能力障害の関係を理解し、対象者の日常生活活動、環境について特徴を学び理解する。</p>
生活技術学実習	<p>生活技術学で学んだ知識をもとに、実習を通して、対象者の日常生活・環境の分析・評価に基づく、より実践的な理学療法および指導についての技術を習得する。また、寝返り、起き上がり、立ち上がり、トランスファーなどの基本動作における指導方法や介助方法、車いすや杖などの福祉用具を用いた移動における指導方法や介助方法の実習を行う。これらは、対象者自ら行う方法の指導のみではなく、介助者への介助方法の指導についても含む。</p>
身体平衡学	<p>姿勢・動作の評価を行うことは理学療法の基礎である。しかしながら、通常のボトムアップ式評価方法だけでは、評価と治療の間に介在するさまざまな問題を捉えることが難しい。身体重心と支持基底面の捉え方、関節モーメント、stiffness分析などに基づき、調和の取れた協調運動の可能な身体への理学療法の可能性を身体平衡から力学的に考える。本講義では、運動連鎖を基礎として、身体への理学療法的介入が、身体運動面である、矢状面・前額面・水平面から対称的になるような介入方法を考えることを目的とする。</p>

授業科目名	講義等の内容
クリニカルリーズニング	<p>クリニカルリーズニングは臨床的な推論の過程をさし、対象患者に関連する直接情報と間接情報、理学療法士の技術や経験を駆使して、対象患者の問題点を理論的に推理しながら評価・治療を進める方法である。クリニカルリーズニングには、知識、論理的思考、的確な技術と評価が必要とされる。講義では、臨床の場でクリニカルリーズニングが適用できることを目的に、クリニカルリーズニングの基本的な推論過程を示し、多くの具体的事例を検討する。</p>
理学療法情報管理学	<p>理学療法士は理学療法士法および作業療法士法第十六条に規定される守秘義務があるだけでなく、平成17年4月施行の個人情報保護法を守って理学療法を行わなければならない。しかし、一方で理学療法学の研究・発展のためには研究の基盤となる個人情報は必要不可欠なものである。そこで、医療職として適切な情報管理が行えることを目的として、理学療法を行うのに知り得た情報についての記録作成から管理に至る情報管理について学習し、併せて、医療機関全般の情報管理の制度や関連他分野および他職種の情報管理も学習することで情報管理に関する理解を深める。</p>
臨床理学療法演習Ⅰ	<p>実際の臨床場面で行動できるためには、単に専門的知識や技術を有するだけでなく、常識ある社会人として行動し、対象者や指導者を含めた職員と良い人間関係を構築できることが必要である。そこで、臨床実習や臨床へのレディネスを高めることを目的として、実際の臨床場面を想定して、これまでに修得した専門的知識や技術を使って演習しながら、良い人間関係を構築するためには何が必要なのか、どのような行動をとるべきか、などについて考え、専門職への適性およびふさわしい態度とはどういうことかについて学習する。</p>
臨床理学療法演習Ⅱ	<p>臨床理学療法Ⅰで学習した実際の臨床場面で行動できるための常識ある社会人として行動し、対象者や指導者を含めた職員と良い人間関係を構築するのに必要なことについて、さらに理解を深める。そこで、臨床理学療法演習Ⅰに引き続き、臨床実習や臨床へのレディネスを高めることを目的として、実際の臨床場面を想定して、これまでに修得した専門的知識や技術を使って演習しながら、専門職への適性およびふさわしい態度とはどういうことかについて学習する。</p>

授業科目名	講義等の内容
テーピング, スリングセラピー, インソールスキル	<p>理学療法の技能である、テーピング、スリングセラピー、インソール各々のスキルを実習を通じて獲得する。各々のスキルの基礎的理解から開始し、学生同士で実習を行う。これらのスキル介入方法として有効性を運動学的根拠として列挙できること、及び、それが実施できることを目的とする。テーピングについては関節疾患との関連性、スリング、インソールについては運動器疾患と中枢性疾患との関連性を理解する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(3 福井 勉) テーピング</p> <p>(5 柿崎藤泰) スリングセラピー、インソールスキル</p>
産業理学療法	<p>我々が社会で快適に働くためには、職場において健康を妨げるさまざまな要因について理解し、事故や疾病を防ぐことが必要になる。本講義では、人間工学や運動学の視点から、これらの問題に取り組んでいくための基礎を理解する。また、身体計測を通して、身近な動作・姿勢の検討や産業疲労の理解を深めていく。従って、総論をはじめ、身体計測による演習、疲労計測による演習を行い、産業理学療法研究の動向を含めて授業を進める。</p>
スポーツ理学療法学	<p>スポーツ外傷について理学療法評価から治療まで理解する。野球肩、テニス肘、ジャンパー膝、シンスプリント、靭帯損傷、半月板損傷、肉離れ、腰痛を疾患例に挙げる。さらにスポーツ分野での理学療法士の活動を挙げ、資格としての理学療法士からスポーツ分野で活躍するためには何が必要になるかを講義する。さらにスポーツリハビリテーションチームの一員として大会管理、チーム帯同などの事例を上げる。スポーツ分野での理学療法の長所には詳細な動作分析が必要であることをトップダウン評価から理解する。</p>
口腔理学療法	<p>身体における関節で使用頻度が最も多いのは顎関節であるといわれている。特殊な構造を有し、関節円板の存在もユニークである。また顎関節は迷路や視覚といった身体バランスの中枢と近いことから姿勢との関連も指摘されている。アメリカでは顎関節専門の理学療法があるが、日本ではニーズがあるものの普及していない。本講義では、口腔の機能である摂食・嚥下と顎関節の解剖、運動学から全身の姿勢への影響を踏まえ講義する。顎関節から見た身体変化、重心、足圧中心との兼ね合い、その評価方法と治療について講義する。</p>

授業科目名	講義等の内容
臨床バイオメカニクス	<p>生物学的構造における力と効果に関する学問を臨床的に講義する。特に動作分析の力学的理解に重点を置き、トップダウン評価の理論的根拠、3次元動作解析装置による分析と視覚的な臨床分析の対比を行う。具体的には、正常歩行分析と異常歩行分析を力学的解釈をつけて行う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(18 江原義弘) 力学的知識の基礎</p> <p>(16 石井慎一郎) 疾患を有する人の歩行</p> <p>(3 福井 勉) 機器、理学療法への応用、有痛性疾患の歩行分析とその他の動作(寝返り、起き上がり、立ち上がり、ジャンプ、ランニング、投球動作)の力学的効果の解釈</p>
リハビリテーション工学	<p>リハビリテーション工学とは電子工学・機械工学・土木工学・建築学・生体工学などの工学の知識・技術をリハビリテーションに活用しようとする学問領域である。リハビリテーションにおける治療を補助・代行すること、あるいは治療的手段とは異なり、失われた身体機能を補完または代行することで、障害を有する人が全人的な復権を図るプロセスを支援することを目的としている。本講義ではリハビリテーション工学としてのアプローチについて理解する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(33 野村 勲) 総論、トピックス</p> <p>(7 堀内(西條)富美代) 実際的なアプローチ方法</p>
徒手理学療法	<p>臨床での理学療法実施において必要となる徒手的治療技術についての理解を深め、また実技練習を通して軟部組織や関節に対する Mobilization テクニックなどについて学習する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(10 具志堅敏) 徒手理学療法についての理解を深め、軟部組織や関節に対する Mobilization テクニックなどの実技練習を通して習得する。</p> <p>(28 竹井 仁) いくつかの徒手的治療技術について概説し、実習を通して理解を深める。</p>

授業科目名	講義等の内容
ウーマンズヘルスケア	<p>女性の体における骨盤底の機能解剖、ホルモン変化、加齢に伴う変化を学ぶとともに、それらの機能障害により生じる問題を理解する。また各機能障害に対する評価とアプローチを学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄障害（失禁・便秘）への対応：骨盤底筋群へのアプローチ ・妊産婦への対応：骨盤痛、腰痛やフィットネスに対するアプローチ ・冷え性・浮腫に対する対応：乳癌術後療法としてのリンパ性浮腫へのアプローチ ・高齢女性の閉経後の諸問題への対応
健康増進理学療法	<p>本講義では、より健康に、そして疾病や障害を起こさないための予防、いわゆる「攻めの健康管理、理学療法」について学習する。特に、健康増進と理学療法との関わりについての理解を深め、生活習慣病予防（治療）、健康づくりのための運動処方を展開できるようになることが目標である。</p>
社会福祉概論	<p>歴史的背景に基づく現代社会の社会福祉の意義・理念のもとに知識・技能・専門性・倫理の基礎を広く理解し、社会福祉の法体系や制度および専門職の必要性を理解するとともに関連施策の概要を把握する。さらに、地域社会福祉の確立と共生社会の実現のために社会福祉の原理的・体系的・歴史的な理解の素養を身につける。(1)日本の社会福祉の概要、(2)海外における社会福祉の概要、(3)社会福祉法および関連法の理念と目的、(4)実施主体と運営組織、(5)福祉サービスの提供と利用（権利擁護制度を含む）、(6)社会福祉の財政と費用負担、(7)社会福祉における公私の役割、(8)地域福祉の内容と推進組織・担い手、(9)地域福祉計画と各種計画の連携および財政、(10)所得保障制度の概要、(11)医療保障制度の概要、(12)介護保険制度の概要、(13)雇用就労制度の概要、(14)在宅制度の概要、(15)生涯教育・障害教育制度の概要、(16)社会福祉基礎構造改革と社会福祉事業法改正、(17)社会福祉援助技術の発展、(18)社会福祉援助技術の概要とその動向、(19)専門職の目的と内容および範囲と種類、(20)社会福祉従事者の専門性と倫理、(21)社会福祉をめぐる国と地方の政府間関係</p>

授業科目名	講義等の内容
地域理学療法	<p>理学療法士の活躍の場は医療にとどまらず、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設などの入所サービス、デイケアなどの通所サービス、訪問理学療法など保健分野、福祉分野へと急速な広がりを見せている。そこで、医療分野、福祉分野、保健分野等、地域で行われている理学療法に関して紹介し、それぞれの理学療法の目的、視点、技術に関して学ぶ。また、関連職種、行政、介護保険、地域における小児と理学療法士との関連などについて学習し、地域における理学療法士の役割について理解する。</p>
地域理学療法演習	<p>地域理学療法で学んだ、地域で行われている医療分野、福祉分野、保健分野の理学療法の目的、視点、技術を基に、それぞれの分野における理学療法の立場で演習を行い、地域での理学療法士の活動について知識と実際を統合する。また、この演習を通してそれぞれの分野における理学療法の目的、視点、技術の違いを理解し、それぞれの役割と立場を理解し、行政・介護保険など社会資源の活用方法、関連職種との連携の取り方などグループワークを行いながら学ぶ。</p>
バリアフリー論	<p>地域で生活している高齢者・障害者のADLおよびQOLの向上を図るために保健、医療、福祉、工学など各分野の連携の下にリハビリテーションを進めることが重要である。この講義では高齢者・障害者の特性に応じて、居住環境の物理的な制約条件を改善するために、家屋の評価、住宅設計の基本、住宅の増改築の基本項目を学ぶと共に、福祉用具の知識、摘要に関する知識を修得する。さらに、高齢者・障害者の生活を保障する行政・福祉制度についても学習する。</p>
在宅ケア	<p>障害者や高齢者が在宅にて生活する場合、様々な理学療法サービスが必要となる。介護保険により、在宅ケアの分野での理学療法に対する期待が高まり、要望も急増している。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(7 堀内(西條) 富美代) 訪問理学療法、デイケアやショートステイなど実際的な方法の紹介、注意事項などについて教授し、それぞれの理学療法を実施する時の視点、目標のあげ方、技術を学習する。</p> <p>(26 下井俊典) 理学療法実施に必要な介護保険等の制度、他職種との連携、社会資源の利用方法などについて学習する。</p>

授業科目名	講義等の内容
卒業研究	<p>卒業研究では、主に研究の方法論を中心に、具体的なテーマに沿って行う。研究には調査、症例研究、実験研究がある。個人およびグループで研究を行い、指導教員から指導を受ける。また、研究内容を研究発表会で発表し、卒業論文集を作成する。</p>
総合評価学実習Ⅰ	<p>臨床への導入部と位置づけた実習であり、2年終了時に総合評価学実習Ⅰ（2単位90時間）を行う。ここでは機能診断技術学を基盤とした評価の基礎を実施する。個別評価である独立した様々な機能診断技術を確実に施行し、いわゆるボトムアップ式評価の基礎の完成を目的とする。個別評価施行後、問題点の提示までを行う。さらに運動解剖学を基盤とした触診技術についても臨床実習で確認する。また態度、話し方などを始めとする情意領域での学習も重要な目的である。また臨床医学の多くの科目を終了していることより、拘縮や麻痺などの臨床症状を観察する機会を与える。臨床症状に加え、関節可動域訓練や筋力強化などの基本的知識や技術を直接患者との触れあいから確認する。</p>
総合評価学実習Ⅱ	<p>3年次後期に、総合評価学実習Ⅱ（4単位180時間）を施行する。本学の最大の特徴として、動作分析から評価を行ういわゆるトップダウン式機能診断技術の基礎の確立を目的とする。この時期までに学内実習においては、臨床運動学、病態運動学、動作分析学、動作分析学実習などのトップダウン式機能診断技術をベースとして、トップダウン評価のレディネスを高め、さらに、ボトムアップ式機能診断との統合を臨床理学療法演習Ⅰではかった後、学外実習を行う順序となる。</p> <p>学内教育で修得した知識や技術は応用しないと臨床では用いられないことを実体験として学ぶと同時に、治療依頼者（クライアント）との関係を結ぶことで、実習施設における指導者のモデル学習を行う。運動器疾患1例、および中枢神経系1例、計2例の評価から問題点を抽出することを本実習の目的とする。</p>

授業科目名	講義等の内容
総合臨床実習Ⅰ	<p>4年次前期に、総合臨床実習ⅠおよびⅡ（6単位 270時間 2回）を行う。学内学習は、数科目を残し理学療法に関する基本的学習を全て終了している段階である。総合評価学実習Ⅱを基にして、さらに理学療法治療学の学習や臨床理学療法演習Ⅱを終了している。それまでの学内および学外学習を通じて得た全ての情報を駆使して、患者の有する問題を明らかにし、有効な理学療法プログラム作成および治療の実施へと進む。総合臨床実習でのトレーニングを積むことにより医療従事者としての価値観を作り上げ、患者の諸問題について解決を図る。</p> <p>評価・プログラム立案、治療、再評価といった一連の問題解決のプロセスを体験し、理学療法士として知識、技術、価値観を高い次元で統合することが目的となる。チーム医療の一員であることを学び、実践を通して理学療法技術に磨きをかけ、必要な情報収集・記録・報告ができるようになることも重要な目的である。</p>
総合臨床実習Ⅱ	<p>4年次前期に、総合臨床実習ⅠおよびⅡ（6単位 270時間 2回）を行う。学内学習は、数科目を残し理学療法に関する基本的学習を全て終了している段階である。総合評価学実習Ⅱを基にして、さらに理学療法治療学の学習や臨床理学療法演習Ⅱを終了している。それまでの学内および学外学習を通じて得た全ての情報を駆使して、患者の有する問題を明らかにし、有効な理学療法プログラム作成および治療の実施へと進む。総合臨床実習でのトレーニングを積むことにより医療従事者としての価値観を作り上げ、患者の諸問題について解決を図る。</p> <p>評価・プログラム立案、治療、再評価といった一連の問題解決のプロセスを体験し、理学療法士として知識、技術、価値観を高い次元で統合することが目的となる。チーム医療の一員であることを学び、実践を通して理学療法技術に磨きをかけ、必要な情報収集・記録・報告ができるようになることも重要な目的である。</p>

作業療法学科の講義等の内容

授業科目名	講義等の内容
人間共生論	<p>人間は太古の昔以来、「独り立ち」することを「大切なこと」として今日まで生きてきた。独り立ちした個人、家族、集団、国家。このことはこれからの 21 世紀においても変わることなく、「大切なこと」として求め続けられていくことであろう。しかし人間は本来、「共に生きる」存在である。人間は太古の昔以来、人々と「共に生きる」こと、自然と「共に生きる」ことによってはじめて「独り立ち」することも可能であったのである。しかるに人間は「独り立ち」することの魅力に目がくらみ、自らが「共に生きる」存在であることを忘れてしまった。この人間の自らの存在の忘却が、「人間と自然」、「人と人」との関わりの問題など、現代社会の根本的な諸問題を生み出す根源となった。これらの今日的な焦眉の課題を根本的に検討し、「独り立ち」という人類の永遠の願いを一人一人の人間が見事に成就するには、人間が本来「共に生きる」存在であることを改めて思い起こさなければならない。「共に生きる」ことを基盤に据えて「独り立ち」することを問い直しすること。これが 21 世紀に生きるわれわれの課題なのではなかろうか。「人間共生論」はこの様な問題意識のもとに展開されていく。</p>
人間共生社会論	<p>現代人は、様々な領域で、異質なものと共生を求められている。自然との共生、地域社会との共生、高齢者とその他の世代との共生、障害者と健常者の共生、男女の共生、外国人との共生などである。本講義では、共生とは何であるかという問題意識を踏まえた上で、これまでの固定的な自然観・人間観を問い直し、人間としての自己実現や社会人としての在り方を考える。そして、人と自然が共生する社会の姿、並びに、立場の違う者同士が共生する社会のあり方について考察していく。</p>
心理学概論	<p>作業、理学、臨床等対人専門領域の専攻を目指す学生の基礎教養となる心理学の概説である。心理学の歴史をはじめ、心理学各分野の基礎理論・代表的トピックおよび人間と心理学の関係について、全般的・総論的な理解を目指す。</p>
文章作法	<p>文章表現に必要な基礎知識・技術を学ぶ。特に、理科系の作文技術を重点に置き、論理的な文章かつ分かりやすく簡潔な文章を目的とする。メモ・レポート・記録文・説明文・報告文・論文など、大学や職場など実際の生活の中で必要な文章を書く方法を身につける。また、内容のある文章を書くために一般教養となる、優れた文章や新聞記事などに多く触れる。</p>

授業科目名	講義等の内容
生命科学（生命倫理）	<p>本講義では、私たち人間自身を生物学的に知ることを目的として、特に保健医療技術学部の学生が、これからの世の中で活躍していく上で、有用と考えられる分野を精選して解説する。可能な限り、最近のトピックスを導入として、その背景から基礎までを解説する方向で展開していくことにしたい。後半は、古くからある多様な死生観を踏まえ、病者、家族も含めて、人工授精、体外受精、臓器移植や脳死、安楽死、尊厳死などの現状と倫理的課題を考える。障害者の尊厳についても触れる。生命と人格の尊厳に基づく愛、性、幸福、死の在り方を見つめ、自然環境を含めた生命あるすべてのものへの関心を高めていく。</p>
人間の歴史	<p>旧世界における古代文明の興亡について論述する。各文明に通用あるいは特有の重要テーマを掘り下げたい。(1)石器時代、(2)文明の起源（メソポタミア文明・エジプト文明・インダス文明・中国文明）、(3)金属の歴史、(4)文字の歴史、(5)死と墓（古代エジプトの死と墓・ギルガメッシュ叙事詩にみるシュメル人の死）、(6)馬と戦争、(7)帝国の時代（最古の帝国アケメネス朝ペルシャ・アレクサンドロスの東征とヘレニズム世界の成立・地中海帝国ローマと東方・匈奴と秦漢帝国）、(8)古代史探求の方法</p>
生物学	<p>生物学は具体的な生命の科学であり、特に人に関わる医療・福祉職にとっては、専門基礎分野科目（解剖学・生理学・病理学など）を学ぶためにこの基礎科目を修得しておくことが大切である。本科目はこれまでに生物の履修経験のない学生についても考慮し、生物学の基礎知識を整理して、講義を行う。</p>
化学（無機・有機）	<p>中学校、高等学校で学んだ化学の知識を基に、医学の専門分野を理解するのに必要な化学知識を習得することを目的とする。以下に授業内容を示す。1)物質の構造では原子と分子、原子の構造。2)物質の状態では気体、液体、固体、溶液、コロイドについて。3)物質の変化では、化学変化、化学反応の種類、反応速度、化学平衡について。4)無機化学では元素の分類、非金属、金属の化学、配位化合物、原子核反応について。5)有機化学では有機化合物を構成する元素、構造、特性、有機化合物の官能基、生体の化学成分について。</p>
物理学	<p>医療の世界においても、治療に際して起きる現象あるいは治療的技術の多くの部分は科学的知識を基盤として成り立っている。本講義では応用できる物理学の知識を得ることと科学的な思考のための方法論を修得することを目標として講義を行う。</p>

授業科目名	講義等の内容
統計学	<p>本講義の目標は、統計の基礎知識を与えると同時に、実際の問題解決にあたって、いかに統計を用いて問題を明らかにしていくか、応用力を身につけることを目標とする。講義の内容は、①統計の基礎、標本抽出、②平均値、統計図表、度数分布、③正規分布・正規確率、④分散、⑤推定と検定、⑥質的データの扱い、⑦相関関数・将来予測、⑧疫学調査法、⑨統計演習である。</p>
保健体育学	<p>生涯スポーツの時代における体育・スポーツ活動の意義について理解し実践できる能力を養う。そのために、体育スポーツに関する科学的領域から行政・制度的領域まで幅広く学習する。</p>
保健体育実習	<p>本実習の目標は、各種の運動を実践し、運動技能を高めるとともに体力の維持、向上を図り、かつ生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力を身につける。実習の内容は、1. バスケットボール、2. バレーボール、3. ホッケー、4. ミニサッカーなどを実習する。</p>
医療経済学	<p>今日、医療については、医療費増大や医療過誤などいろいろな問題がある。しかし、それを医療の世界のみで考えるのではなく、別の視点から眺めてみると、なぜこういうことが起きるのかという分析ができ、その問題点や解決策が見えてくることがある。そこで、本講義では医療に関する様々な問題点を「経済学」という視点から捉え、講義を行う。</p>
人間関係論	<p>人は生まれつき、社会的な生き物である。客観的な判断をしようとするときでも自分に思いをはせるときでも、気づかないうちに他者は私たちに影響を与えている。一方、私たち自身も、意識的・無意識的に他者に特定の印象をもたれようとしたり、他者とうまくやっつけようとしたりする。この講義では私たちのこうした社会的な性質を理解したうえで、具体的な人間関係がどのように営まれているか概説する。また、個々の人間関係を越えた集団が私たちの人間関係にどのような影響を与えているかについても概説する。(1)社会的生物としての人間、(2)人と世界を理解する、(3)個人と社会をつなぐ自己、(4)社会的影響、(5)様々な人間関係、(6)集団の心理</p>

授業科目名	講義等の内容
人間関係論実習	<p>コミュニケーションは単に通信、交通、意思の疎通の手段のみに留まらず、人格そのものであると考える。自分の意思を伝達するには、会話だけでなく、ボディランゲージ、フェイスマンゲージ、服装、ヘアースタイル、メイクアップなど全てを含めた個人の表現方法を用いる。社会人として不可欠な知識と基本的なビジネスマナーを修得し、自己表現力を磨き、企業内の人間関係をスムーズに保つためのコミュニケーション能力を身につけるのは、自分自身を高めるための必須条件である。これらについて解説し実習を行う。</p>
社会貢献実習	<p>地域を基盤とする実践活動に参加し、その活動の趣旨、企画・運営・利用者の特徴とニーズ、今後の課題などについて理解する。各専門分野の枠を超え、集団または個人に対する各種地域サービスの実際を体験することにより、他職種間での相互理解と協力の必要性を学ぶ。その活動状況や定期的に提出を要請されるレポートなどを総合的に評価して、成績評価を行う。</p>
英語 I	<p>This class is designed to motivate the students in their English study, encourage confidence in their English ability, review basic structures, and give students the tools to express themselves. Speaking, listening and reading skills are practiced, all with an emphasis on interaction and communication. Students are encouraged to be active participants in their own learning process.</p> <p>英語学習に対するモチベーションを与える。各自の語学能力に自信もたせる。基礎的な構文の復習、自己表現の手段としての英語学習を行う。コミュニケーションに重点をおいて、話す・聞く・読むスキルを練習する。学生の積極的な参加姿勢が期待される。</p>

授業科目名	講義等の内容
英語Ⅱ	<p>This class is designed to motivate the students in their English study, encourage confidence in their English ability, develop the ability to express opinions, review basic structures. Discussion, listening and reading skills are practiced, all with an emphasis on interaction and communication. Students focus more on functions and language to help convey feelings and opinions. Students are encouraged to be active participants in their own learning process.</p> <p>英語学習に対するモチベーションを与える。各自の語学能力に自信もたせる。意見を発表する能力を伸ばす、基礎的な構文の復習を行う。コミュニケーションに重点を置いて、ディスカッション・リスニング・リーディングスキルを練習する。特に機能的表現、感情や意見を伝えるための表現に焦点を合わせる。学生の積極的な参加姿勢が期待される。</p>
医学英語	<p>本講義の目標は、英文の専門論文を読解し、要旨を報告することができることを目標とする。また、接頭接尾語や専門用語を記憶することと on line の文献データベースを利用して文献検索ができることも目標とする。講義の内容は、1. 接頭接尾語、2. 文献の読み方、3. 文献抄読、4. 文献検索、5. 解剖学用語・運動学用語を中心に行う。</p>
海外異文化理解・研究Ⅰ	<p>この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1セメスター、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で正規の授業を履修する留学（正規学部留学）で、外国での留学中の学習状況および帰国後、留学先での興味・関心のあるテーマを各自が設定し調査研究を行ったレポートを総合的に評価する。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。</p>
海外セメスター語学研修Ⅰ	<p>この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1セメスター、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で語学研修プログラムを履修する留学（語学研修留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。</p>

授業科目名	講義等の内容
海外異文化理解・研究Ⅱ	<p>この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1セメスター、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で正規の授業を履修する留学（正規学部留学）で、外国での留学中の学習状況および帰国後、留学先での興味・関心のあるテーマを各自が設定し調査研究を行ったレポートを総合的に評価する。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。</p>
海外セメスター語学研修Ⅱ	<p>この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1セメスター、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で語学研修プログラムを履修する留学（語学研修留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。</p>
海外語学（英語）研修Ⅰ	<p>この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（英語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。</p>
海外語学（英語）研修Ⅱ	<p>この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（英語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。</p>

授業科目名	講義等の内容
海外語学（該当英語外）研修Ⅰ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（該当語学短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外語学（該当英語外）研修Ⅱ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（該当語学短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外語学（中国語）研修Ⅰ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（中国語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外語学（中国語）研修Ⅱ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（中国語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
情報科学	本講義の目標は、パーソナルコンピュータを用いて、学習上必要な文書の作成、データ分析、プレゼンテーションの基礎技能を身につける。講義の内容は、①オリエンテーション・基礎知識、②医療情報学・文献検索を中心に行う。

授業科目名	講義等の内容
情報演習	<p>本講義の目標は、パーソナルコンピュータを用いて、学習上必要な文書の作成、データ分析、プレゼンテーションの基礎技能を身につける。</p> <p>講義の内容は、①MS-Word 講義・演習、②MS-Excel 講義・演習、③MS-PowerPoint 講義・演習である。</p>
介護概論	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケア・介護の本質および概念を理解する。 2. ケア・介護の歴史から、社会福祉における介護援助の意味を考える。 3. 介護の社会化について考える。介護に関連した社会的諸問題をとらえる。 4. 人体の持つ力から介護の方法と援助技術を学ぶ。一食事・排泄・清潔 5. 介護の実際を知る。－痴呆老人と知的障害者の介護・ターミナルケア・介護アセスメント
障害者心理学	<ol style="list-style-type: none"> (1)人間の生涯にさげられない障害と、その援助に関する基礎的理解 (2)発達障害、身体障害、精神障害などの態様、発生の仕組みの概要理解 (3)障害が及ぼす心理的影響と障害克服の援助、援助技術に関する考え方、基礎知識の習得
家族社会学	<p>家族に関する主要な理論（配偶者選択、夫婦関係、親子関係、家族変動等）の学習を通じて、家族構造、家族機能、家族役割に関する理解を深め、現代社会における家族現象や家族問題（未婚化・晩婚化、生殖技術の進展と親子関係、児童虐待と家族、高齢者介護と家族等）に接近し、その現状を理解するとともにそれを読み解く視点の習得を目指す。</p>
地域精神保健	<p>地域を中心とした住民の精神的健康の増進を課題としながら、特に在宅精神障害者が地域で生活していくうえでの生活障害を考える。福祉コミュニティの創造が望まれる今日、「地域精神保健」学は、その成立に大きく貢献する。ソーシャルワークとの関連も含め、その概要を明らかにする。</p>
老年心理学	<p>21世紀の高齢社会における高齢者像を理解することを目的として、老年心理学の基礎知識を学ぶとともに、人の生涯にわたる心や体の発達と老化と高齢期のあり方について学習する。</p>
認知心理学	<p>認知心理学の主要なトピックである、記憶・概念・問題解決を中心に、過去の研究例に基づき、解説を行う。日常的な経験と照らし合わせながら、心の働きを理解することを目的とする。</p>

授業科目名	講義等の内容
学習心理学	この講義は、(1)学習とは何か、(2)古典的な条件づけ、(3)オペラント条件づけ、(4)観察学習、(5)学習の進化、(6)学習の動機付け、(7)動機付けの種類、(8)賞罰と学習成績、(9)達成動機、(10)原因帰属と動機づけ、(11)無気力からの脱出、(12)自己効力と学習、(13)動機づけの発達、(14)自己決定と学習について詳細に学習理解する。
家族心理学	近年の社会構造の変化に由来する家族機能の変容を考える。夫婦・親子・きょうだいなどの家族内の関係、結婚や離婚に関する心理-社会的な事象、家族の形成・発達・崩壊などの家族過程について学習する。家族に対する心理-社会的な支援に関する理論および実践について、また心理的問題を予防する家族のあり方についても講義する。
解剖学 I	本講義の目的は、理学・作業療法学を学ぶ上で基盤知識となる人体構造を系統的に理解し習得することである。解剖学 I では、とくにリハビリテーションにとって重要となる運動器系を中心にその調節系統である神経系ふまえて学習する。内容は、①解剖学総論、②骨格系、③筋系を講義する。また、机上の知識だけにならぬように、適宜、骨格標本など人体解剖モデルの観察も行なって理解を深めた学習にする。
解剖学 II	本講義の目的は、理学・作業療法学を学ぶ上で基盤知識となる人体構造を系統的に理解し習得することである。解剖学 II では、からだの各器官を調節する神経系と、からだを栄養する循環器系を中心に、人体内部にある内臓系全般の基本的な成り立ちと構造について学習する。内容は、①神経系、②循環器系、③呼吸器系、④消化器系、⑤泌尿器系、⑥生殖器系、⑦内分泌系、⑧感覚器系について講義をする。講義中には適宜、人体解剖モデルなどの観察を導入し、臓器の実体をイメージできるように学習する。
解剖学実習	本実習の目標は、解剖学 I・II の講義で学習してきた系統解剖学的な知識を人体解剖モデルおよび動物解剖標本の観察によってさらに補足・深化させることである。とくに、人体各器官の局所解剖学的な位置関係を中心に学習する。内容は、①体幹の解剖、②頭頸部の解剖、③上肢の解剖、④下肢の解剖、⑤中枢神経系の解剖を行なう。

授業科目名	講義等の内容
生理学Ⅰ	<p>本講義の目標は、生理学的な考え方で生体に対処できる人を作ること。具体的には生理学を理解し、生理学的な考察のできる計画を立てられ、得られた結果を生理学用語を用いて表現できることを目標とする。刺激と興奮、末梢神経細胞の分類と特性、接合部と受容器、脊髄反射・脊髄反射と脊髄ショック、脳幹と小脳・視床下部と大脳辺縁系、視覚と聴覚、感覚投射系、皮膚感覚と平衡感覚、運動系、高次中枢機能を講義する。</p>
生理学Ⅱ	<p>本講義の目標は、生理学的な考え方で生体に対処できる人を作ること。具体的には生理学を理解し、生理学的な考察のできる計画を立てられ、得られた結果を生理学用語を用いて表現できることを目標とする。さらに、PT・OTとしての利用応用の立案が出来るようになることを希望する。骨格筋、呼吸、心臓、循環、体温調節、尿生成、排泄、内分泌、作業と疲労、血液・消化について講義する。</p>
生理学実習	<p>本講義の目標は、生理学的な考え方で生体に対処できる人を作ること。具体的には生理学を理解し、生理学的な考察の出きる計画を立てられ、得られた結果を生理学用語を用いて表現できることを目標とする。なお、付随して口演、論文発表による返答法など学術活動の基本的な方法を修得して、PT・OT学会活動に備えるもう一つの目的がある。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(1 石田行知) 活動電位、容積導体、呼吸を講義し、追加発展実験および実習報告会を行う。</p> <p>(2 坂井 泰) 感覚(1)、感覚(2)、H波、運動負荷を講義し、追加発展実験および実習報告会を行う。</p>
生化学	<p>生化学とは、生命現象を科学的手段を用いて解明する学問であり、私達の身体がどのような物質から成り立っていて、それらの物質が細胞、組織あるいは臓器などの生体システムの中でどのような機能を営んで生命を維持しているのか、すなわち、生体を構成し、生命活動を維持する基本物質の構造と機能ならびに代謝について学習する。</p>

授業科目名	講義等の内容
運動学	<p>本講義の目標は、解剖学、生理学などの基本的知識に基づき身体運動の基本事項について、生体の構造と機能について、上肢・下肢の運動全般について、姿勢・運動・動作の基本的分析方法について学ぶ。「基礎運動学」(中村隆一他著)を中心として以下の内容を網羅する。「1章:運動とは」「2章:力学の基礎」「3章:生体の構造と機能」「4章:上肢・下肢の運動」「5章:運動・動作の分析」「6章:運動処方」「7章:姿勢」「8章:歩行」</p>
人間発達学	<p>目の前にいる対象者は突然今の状態にあるわけではなく、発達の過程を経て存在している。そこで、人間理解の基礎として、生涯発達の視点から、発達の一般法則および個人的特性の形成について、生理的・心理的・社会的に発達の推移を概観し、理解を深める。</p>
運動学実習	<p>本講義は、運動学に関する基礎知識を実習により確認し、ヒトの正常運動、動作の解析に関する基礎能力を獲得する。「筋骨格と関節運動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「立ち直り・バランス反応」「筋活動(測定と解釈)」「運動発達」「食事動作分析」「手の動きと動作分析」「立ち直り・バランス反応」「呼吸・循環・エネルギー代謝」「歩行(3次元計測・運動と力)」の実習を行なう。</p>
病理学	<p>なるべく臨床面に即した病理形態学を講義する。これにより、病変、病気の理解を深めようと努める。「病理学総論」「腎」「呼吸器」「消化器(肝臓)」「消化器」「泌尿生殖器及び乳腺」「循環器」について講義する。</p>
リハビリテーション医学	<p>本講義の目標は、リハビリテーション医学の特質について理解すること。(他の治療医学と異なり「障害」を対象とし、「復権」を目標とする。)代表的な疾患分野についてその生涯学、リハビリテーションアプローチを理解することである。1. リハビリテーション医学総論、2. 小児(CPを含む)疾患のリハビリテーション、3. 神経筋(筋ジスを含む)疾患のリハビリテーション、4. 内部障害のリハビリテーション、5. 脳(脳卒中を含む)疾患のリハビリテーション、6. 関節(RAを含む)疾患のリハビリテーション、7. 脊髄(脊髄損傷を含む)疾患のリハビリテーション、8. 痴呆、その他について講義する。</p>
臨床医学内科	<p>臨床医学内科のあり方を診断方法、治療総論をとおして講義する。①総論、②呼吸器疾患・呼吸器疾患の治療、③感染症、④消化器疾患、⑤腎・泌尿器、⑥C型肺炎と肝癌の治療、⑦妊婦・分娩、⑧膠原病・免疫不全、⑨代謝性疾患・内分泌、⑩循環器疾患総論、⑪循環器疾患各論、⑫血液疾患について理解を深める。</p>

授業科目名	講義等の内容
臨床医学整形外科	<p>本講義は、「整形外科とは」「整形外科的診断法検査法」「整形外科的治療法」「手関節と手指」「膝関節・下腿・足・脊椎・脊髄」「四肢切断・スポーツ整形・慢性関節疾患」「リウマチと類縁疾患感染症」「代謝内分泌・骨腫瘍・末梢神経損傷」「脳性麻痺・筋ジス」「骨疾患・骨端症・骨壊死・四肢循環障害・障害者スポーツ」「手術療法・軟部組織損傷」「骨・関節損傷・骨折・脱臼・捻挫」「肩関節・上腕」について行う。</p>
臨床医学精神科	<p>本講義の目標は、臨床精神医学全般の概括的理解と精神障害者のよりよき理解にある。「総論」「統合失調症」「躁うつ病」「神経症・人格障害」「薬物依存」「てんかん」「精神科治療学」「老人・器質性精神障害」「児童・思春期・青年期」についての講義を実施する。</p>
臨床医学小児科	<p>臨床医学小児科全般にわたる知識を得る。特に、リハビリテーション関係者に必要な小児神経系の疾患については詳細な解説を加え、高いレベルの知識を得るように講義を行う。成長発達、周生期障害、先天性代謝異常、遺伝疾患、脳性麻痺、重症心身障害、血液、悪性腫瘍、循環器、呼吸器、感染症、免疫、アレルギー・腎疾患、MR、自閉症、栄養、消化器・内分泌、代謝、神経筋疾患、てんかんについて講義する。</p>
臨床医学神経内科	<p>本講義の目標は、神経疾患患者の診察法を理解すること、主要な症状と病変との関連を理解すること、主要な神経疾患について理解することである。「1 神経学総論、神経疾患の病歴」「2 神経学的診察法」「3 症候学（運動障害）」「4 症候学（感覚障害）」「5 症候学（自律神経障害）」「6 症候学（高次脳機能障害）」「7 神経疾患の合併症」「8 画像診断」「9 その他の補助診断法」「10 脳血管障害」「11 頭部外傷、脳腫瘍」「12 パーキンソン病」「13 脊髄小脳変性症」「14 運動ニューロン疾患」「15 脊髄疾患」「16 ニューロパシー（末梢神経疾患）」「17 ミオパチー（筋疾患）」「18 痙攣、てんかん、めまい」について講義する。</p>
老年学（脳外，泌尿器）	<p>間もなく超高齢化社会を迎える日本において、高齢者の医療や福祉はわが国における大きな課題の一つである。高齢者は生理的老化現象に加えて種々の疾患に起因する病的老化が併存していることを理解し、適切な対応のできる医療職を目指す。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(39 森田 隆) 高齢者の日常生活で問題となりやすい泌尿器系の変化について生理的老化と病的老化を中心として学習し、理解を深める。</p> <p>(17 岩淵 聡) 高齢者に多い脳血管障害や高次脳機能障害を含めて、脳の生理的変化と病的変化について学習し、理解を深める。</p>

授業科目名	講義等の内容
臨床心理学	臨床心理学の基本的理解を促すことを目標とし、自分をも含めた人間理解が深められることを目標とする。講義の内容は、①歴史、②基礎的パーソナリティ論、③パーソナリティの問題、④パーソナリティの診断、⑤質問紙法心理テスト、⑥投影法心理テスト、⑦心理療法を行う。
薬理学	競技者にとってはより高いパフォーマンスを得るために、生活習慣病者にとっては日々の生活を安定的に送るために、またどちらでもない人にとっても健康に日々を過ごすためには「栄養」は重要である。そこで、生体を構成する栄養素と健康体を維持するための栄養素の働きを理解し、食事療法の基礎知識も含めて学習する。
保健医療技術概論	健康とは何か、病むとは何かを理解し、国内外における保健・医療・福祉の歴史、現況を学び、併せて保健・医療・福祉の諸問題や展望について考える。また、病院や医療施設、医療機関等における感染や安全管理の内容を含めたリスクマネジメント等に関して講義し学生に十分理解をさせる。
リハビリテーション概論	<p>リハビリテーション医療の基本を身につけるため定義、歴史、理念をとらえる。チームの概念、チーム構成と役割、関係法規と保健医療福祉行政について認識する。また障害の分類・評価・アプローチについて把握する。世界保健機構でのICF (International Classification of Functioning, Disability and Health) 定義に基づき人間の生活機能と障害の分類法を、QOLとノーマライゼーションについての概念とともに理解する。同時に理学療法・作業療法の基礎概念についても理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(22 川手信行) リハビリテーション医療、障害分類、チーム医療、理学療法、作業療法以外のチームの役割、関係法規、行政について</p> <p>(3 福井 勉) リハビリテーションにおける理学療法の役割</p> <p>(45 長崎重信) リハビリテーションにおける作業療法の役割</p>

授業科目名	講義等の内容
社会福祉概論	<p>歴史的背景に基づく現代社会の社会福祉の意義・理念のもとに知識・技能・専門性・倫理の基礎を広く理解し、社会福祉の法体系や制度および専門職の必要性を理解するとともに関連施策の概要を把握する。さらに、地域社会福祉の確立と共生社会の実現のために社会福祉の原理的・体系的・歴史的な理解の素養を身につける。(1)日本の社会福祉の概要、(2)海外における社会福祉の概要、(3)社会福祉法および関連法の理念と目的、(4)実施主体と運営組織、(5)福祉サービスの提供と利用(権利擁護制度を含む)、(6)社会福祉の財政と費用負担、(7)社会福祉における公私の役割、(8)地域福祉の内容と推進組織・担い手、(9)地域福祉計画と各種計画の連携および財政、(10)所得保障制度の概要、(11)医療保障制度の概要、(12)介護保険制度の概要、(13)雇用就労制度の概要、(14)在宅制度の概要、(15)生涯教育・障害教育制度の概要、(16)社会福祉基礎構造改革と社会福祉事業法改正、(17)社会福祉援助技術の発展、(18)社会福祉援助技術の概要とその動向、(19)専門職の目的と内容および範囲と種類、(20)社会福祉従事者の専門性と倫理、(21)社会福祉をめぐる国と地方の政府間関係</p>
作業療法概論 I	<p>1. 作業療法の歴史的発展と意義を考える。 2. 作業療法に関係深い一般的基礎知識を習得する。 3. 本講義の内容は、作業と活動を治療につなげることの理解を深める。 講義の内容は、「作業療法分野別起源とその発展、人と作業の関わり」「急性期から回復期、維持期の作業療法の流れ、連携と協業」「技法、作業活動の種類と分析、治療的対応、個と集団」「機能の改善、環境の整備、介助技術、自助具、副子」「評価と治療計画、目標、予後、情報把握、カンファレンス」「日常生活動作、職業関連活動、自立、参加、ICF」「作業療法士養成、カリキュラム、日本作業療法士協会設立」「障害体験について計画と課題発表」について講義し、発表会を行う。</p>
作業療法概論 II	<p>作業療法学における基礎理論を紹介し、作業学、作業治療学を学ぶ上での基礎知識とする。 講義の内容は、1. 作業行動理論、2. 作業科学、3. カナダ作業遂行モデル、4. 感覚統合理論、5. 精神分析的作業療法 6. 人間作業モデルについて講義する。</p>

授業科目名	講義等の内容
作業療法研究法	<p>作業療法に関する研究の進め方を学び、関心のある分野について洞察を深める。</p> <p>① 作業療法における研究の意義 ② 作業療法における研究の進め方 ③ 作業療法研究の紹介 ④ 研究論文の書き方 ⑤ 研究発表のしかた</p>
管理運営学	<p>作業療法士として職業に就く際に必要な職場管理と倫理について学ぶ。「1 法律、倫理要綱、専門職、職能団体」「2 自己管理、危機管理、医療の安全性、セクハラ」「3 病院、OT 部門の組織と規則、業務（定期的行事）」「4 OT 部門の記録・報告、書式、文書保存と開示」「5 カルテの扱い、接遇、上司と部下の役割」「6 施設基準、診療報酬、医療の経済性と効率」「7 OT 部門の開設・演習」「8 OT 部門の開設 演習発表」の講義を行う。</p>
基礎作業学Ⅰ	<p>作業療法で用いる手工芸の基本技術を習得する。手工芸の特徴を知り、指導法を知る。作業分析表を作成し、作業が治療に用いられる理由を考える。いろいろな観点から作業分析できないかを学ぶ体験をする。</p> <p>① 草細工 ② 籐細工 ③ マクラメ ④ タイルモザイク ⑤ 銅板細工 ⑥ 絵画</p>
基礎作業学Ⅱ	<p>作業療法で用いる織物の基本技術を習得する。織物の特徴を知り、指導法を知る。レクリエーション活動を企画して、その作業分析表を作成し、作業が治療に用いられる理由を考える。いろいろな観点から作業分析できないかを学ぶ体験をする。</p> <p>① 織物 ② レクリエーション活動 ・ 室内スポーツ ・ 室内ゲーム ③ 園芸</p>

授業科目名	講義等の内容
基礎作業学Ⅲ	<p>1. 木工の基本的知識・技術を修得する。木工の特徴を知り、指導法や障害に対する適応を考えることができる。</p> <p>① オリエンテーション、木工の基礎、作業療法と木工</p> <p>② 手道具の使い方、管理</p> <p>③ 電動工具の使い方、管理</p> <p>④ 作品制作</p> <p>⑤ 作業療法室の管理</p> <p>2. 作業活動 (activity) のひとつである、陶芸の初歩的技術の習得と臨床的意義について考察を深める。</p> <p>① 小皿をつくる</p> <p>② 飯茶碗や鉢をつくる</p> <p>③ 湯呑みをつくる</p> <p>④ マグカップをつくる</p> <p>⑤ 復習とまとめおよび作品鑑賞</p>
作業分析学	<p>作業活動の分析を通して、その分析方法を学びとともに作業活動を分析する力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業分析概論：作業分析の歴史、方法の変遷、臨床応用 ・ 作業分析における個人と集団 ・ 作業活動の治療的応用 ・ 作業分析実習
身体障害作業療法評価学Ⅰ	<p>本講義の目標は、身体障害に対して用いられる関節可動域測定法、徒手筋力検査法の目的を理解する。実施手順、実施上の留意点について講義する。併せて測定技術を習得する。また、解剖学、生理学、運動学で習った知識を再確認する。講義内容は、1) 関節可動域測定法の基礎知識、2) 関節可動域測定法の実技、3) 関節可動域測定法実技試験、4) 徒手筋力検査法の基礎知識、5) 徒手筋力検査法の実技、6) 徒手筋力検査法実技試験を実施する。</p>
身体障害作業療法評価学Ⅱ	<p>本講義は、身体障害分野における評価の目的と意義について理解し、身体障害分野において主に用いられる評価法を体得する。また、観察、検査を評価のまとめに含めることができ、対象者の全体像を把握できることを目標とする。講義内容は、評価とは（観察・面接・記録方法）、感覚検査・反射検査・協調性検査、片麻痺機能検査、上肢機能検査（STEP他）、精神機能検査（HDS-R・コース他）、精神機能・意識状態の検査、についてである。</p>

授業科目名	講義等の内容
精神障害作業療法評価学	<p>本講義の目標は、精神障害者の症状・状態像を把握する方法を理解する。他部門（医師、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士など）から収集した情報を把握する方法を理解する。作業活動を用いて作業遂行能力、社会生活能力、対人交流場面などを評価する方法を習得する。講義の内容は、(1) オリエンテーション、面接、行動観察、(2) 医師からの情報収集とその理解、(3) コ・メディカルスタッフからの情報収集とその理解、(4) 精神科における各種検査、評価バッテリー、(5) 作業活動における評価①、(6) 作業活動における評価②、(7) 作業活動における評価③、(8) まとめを行なう。</p>
発達障害作業療法評価学	<p>本講義は、発達障害に対する作業療法の基礎の基礎を学ぶ。「発達障害と作業療法」「障害児の発達と作業療法」「重症心身障害児と評価」「精神遅滞児と評価」「自閉症児と評価」「進行性筋ジストロフィー児と評価」「脳性麻痺児と評価」「感覚統合と評価」を講義する。</p>
身体障害作業療法治療学	<p>身体障害作業療法治療学総論として身体障害に対する作業療法の基礎的な治療技術について学ぶ。(1) 作業療法と運動療法、(2) 関節可動域訓練の実際、(3) 筋力増強訓練の実際、(4) 神経発達のアプローチについて (5) 医療用機器の使用について学ぶ。</p>
身体障害作業療法治療学演習Ⅰ	<p>本講義は、作業療法の対象疾患である脊髄損傷、神経難病、骨折・熱傷・その他の整形外科疾患、リウマチ、呼吸・循環器疾患について作業療法の治療内容を学ぶ。講義演習の内容は、(1) 脊髄損傷に対する作業療法、(2) 神経難病に対する作業療法、(3) 手の外科に対する作業療法、(4) リウマチに対する作業療法、(5) 呼吸・循環器疾患に対する作業療法。</p>
身体障害作業療法治療学演習Ⅱ	<p>身体障害者（特に中枢神経系疾患）に対する作業療法の実際の治療と治療の背景を理解する。講義演習の内容は、(1) 脳血管障害に対する作業療法、(2) 脳血管障害の治療計画立案、(3) 治療計画発表（フィードバック）、(4) パーキンソン病の作業療法、(5) 失調症の作業療法。</p>
精神障害作業療法治療学	<p>本講義は、精神障害者に対する関わり方の理論と技術を学ぶ。講義内容は、(1) オリエンテーション、(2) 精神科作業療法の諸理論、(3) 法律・制度・施設、(4) 人間関係のもつ意味、(5) 活動のもつ意味、(6) 治療者患者関係である。</p>

授業科目名	講義等の内容
精神障害作業療法治療学演習 I	精神障害者に対する作業療法の基礎知識と技術を学び、作業療法評価を通じて、精神障害者の治療・援助すべき問題点・利点を明確にする。また、作業療法計画（長期目標・短期目標）を立案し、精神障害者への治療・指導・援助を行う方法を理解する。講義演習の内容は、(1) オリエンテーション・臨床実習 I（評価実習）の振り返り、(2) 「肯定的側面と否定的側面」の抽出と焦点化、(3) 作業療法計画の立案と実施①ー長期目標・短期目標の設定、(4) 作業療法計画の立案と実施②ー作業活動の選び方、(5) 作業療法計画の立案と実施③ー回復段階に応じた作業療法、(6) 作業療法計画の立案と実施④ーICF 分類、(7) 作業療法の治療理論（国内・海外）、(8) 症例研究。
精神障害作業療法治療学演習 II	疾患別による作業療法の理論と技術の基礎を学ぶ。講義演習の内容は、(1) オリエンテーション、(2) 痴呆症・てんかんに対する作業療法、(3) 統合失調症に対する作業療法、(4) 躁うつ病に対する作業療法、(5) アルコールの作業療法、(6) 強迫性障害・解離性障害・境界性人格障害に対する作業療法、(7) 摂食障害、児童・思春期の精神障害に対する作業療法、(8) 他職種との連携。
発達障害作業療法治療学	本講義は、発達障害に対する作業療法の理論と技術の基礎の基礎を学ぶ。講義内容は、(1) 発達障害とは、(2) 発達障害作業療法概論（定義・歴史・対象・役割）、(3) 発達とは、(4) 運動機能の発達、(5) 感覚統合機能の発達、(6) 知覚・認知・思考機能の発達、(7) 基本的な生活技能の発達、(8) 心理・社会的発達、(9) 治療の基本理念、(10) 発達障害作業療法における治療原理。
発達障害作業療法治療学演習 I	発達障害に対する作業療法の理論と技術の基礎の基礎を学ぶ。講義演習の内容は、(1) 知的障害・注意欠陥多動性障害・行動分析、(2) 自閉症・学習障害・感覚統合療法、(3) 神経筋疾患、(4) 重症心身障害・脳性麻痺・神経発達の治療法、(5) 運動誘発（誘導）の仕方について（脳性麻痺等の中樞神経疾患への応用）。
発達障害作業療法治療学演習 II	発達障害に対する作業療法の理論の基礎を学ぶ。講義演習の内容は、(1) 神経筋疾患に対する作業療法、(2) ライフステージからみた脳性麻痺に対する作業療法、(3) 重症心身障害児に対する作業療法（行動障害を中心に）、(4) 地域通園施設における作業療法、(5) 学生担当による疾患別発達障害に対する作業療法の発表
高次脳機能障害作業療法治療学	高次神経障害の基礎知識と障害に対するアプローチについて理解を深める。講義内容は、(1) 高次神経障害の基礎知識、(2) 作業療法場面における高次神経障害の評価・観察、(3) 作業療法のアプローチ。

授業科目名	講義等の内容
老年期作業療法治療学	高齢者を取り巻く社会的背景と高齢者の身体機能面および心理・精神機能の特性について学び、それらが高齢者の生活に及ぼす影響について考える。その上で、高齢者の身体機能や心理・精神機能の特性に合わせた老年期の作業療法の評価から治療までを講義する。
義肢装具学	義肢、装具、スプリントの種類、分類、適応疾患等の知識の習得、およびスプリント製作の技術を習得する。講義内容は、(1) 装具学総論、(2) 上肢装具の分類・適応・実際、スプリント製作技法、(3) 義手の分類・適応・実際、(4) 義足の分類・適応・実際 (5) 体幹装具・下肢装具の分類・適応・実際。
日常生活活動学Ⅰ	日常生活活動に関する知識と技術を修得する。本講義内容は、①ADL概論、評価、自助具、②起居動作、移動動作1、移動動作2、③排泄動作、入浴動作、④更衣動作、衣服の改良、⑤食事動作、調理動作、⑥調理動作以外の家事動作、⑦身辺動作、コミュニケーション、⑧レクリエーション、育児動作。また、臨床実習施設で患者様に起居・移動動作、更衣動作等を見させていただく。
日常生活活動学Ⅱ	精神障害者の日常生活パターンの特徴を知り、援助技術の基礎を学ぶ。本講義内容は、①オリエンテーション、②精神障害者のADLの特徴、③行動療法・SST、④身辺処理への援助、⑤生活管理への援助、⑥食事に関する活動への援助、⑦調理実習。
就労援助技術学	人間の職業的発達および障害者の雇用について学び、作業療法で用いられている職業準備に必要な評価法やアプローチを学ぶ。講義内容は、①職業の意味・職業関連活動の概念、②障害者の就労、③障害者の地域共生、④職業関連活動と作業療法の関連、⑤職業関連活動の評価（ワークサンプル法他）、⑥精神障害者の職業リハと援助体系、⑦「医療」における精神障害者への就労支援の実際、⑧「労働・福祉」における精神障害者への就労支援の実際、⑨「医療」と「労働・福祉」の連携と作業療法士の役割、⑩施設見学。
人間工学	バリアフリー環境や福祉用具を評価する方法について論じる。人間工学的な手法を基礎として、それらの環境や用具の特性を計測し評価するための理論と実践について講義する。
リハビリテーション機器適応学	障害者の生活に必要な環境設定、リハビリテーション関連機器についての知識、技術を習得する。講義の内容は、(1) リハビリテーション関連機器概論、(2) 機器使用事例について、(3) 自助具について（自助具の作成、動作分析）、(4) スイッチについて、(5) 住環境整備、(6) 福祉機器について。

授業科目名	講義等の内容
地域作業療法学	地域リハビリテーションに於ける作業療法の役割を学び、老年期障害と介護保険法の適応について、理解を深める。講義内容は、(1) 地域リハビリテーション・法規、(2) 介護保険・社会資源、(3) 老年期障害・ケアマネジメント、(4) 地域作業療法の実践である。
地域作業療法学演習	地域において作業療法士が活動している事例を通して、身体障害、精神障害、発達障害、老年期に対する地域作業療法の実践を学び、地域作業療法計画を立案ができるようになる。
作業療法学演習	作業療法の臨床実習の最終段階として、学生の臨床実習での未経験分野、領域について各担当教員が指導する。すでに学生は臨床実習を終了しており、学生は各教員の臨床現場を見学し、担当教員の指導のもとに臨床から得た情報から治療計画の立案をする。
卒業研究	卒業研究では、主に研究の方法論を中心に、具体的なテーマに沿って行う。研究には調査、症例研究、実験研究がある。個人およびグループで研究を行い、指導教員から指導を受ける。また、研究内容を研究発表会で発表し、卒業論文集を作成する。
施設見学	リハビリテーション関連施設を見学し、病院施設の機能とリハビリテーションの全体の流れを学ぶ。併せて、各施設の特徴を把握し、リハビリテーション職種としての作業療法士の役割を学ぶ。
一般見学後セミナー (オリエンテーションを含む)	施設見学前に見学の目的、見学のポイント、見学後のレポートの書き方などをオリエンテーションし、見学後、見学報告会を行い、見学で得た知識を整理する。

授業科目名	講義等の内容
臨床実習 I	<p>実習先指導者の指導のもと、臨床実習施設において必要な基本的事項について実習を行う。①作業療法の現場を見学し、作業療法士の日常業務と社会的役割を理解する。②医療環境に慣れるにしたいがい、患者との関わりや意思疎通の方法について学ぶ。③病院や施設の組織や管理について理解する。④患者に触れる機会を持つ。⑤患者との意思疎通を十分に果たせるようにする。⑥実習先指導者に対する報告及び指導に対して、確実に反応できるようにする。</p> <p>各障害別実習目標</p> <p>① 身体障害作業療法臨床見学 (a. 実習施設における作業療法(士)の役割と機能を学ぶ。b. 徒手筋力検査・関節可動域測定を経験する。c. 対象者と接することで、症状や障害について学ぶ。d. 専門職として意識の育成を図る。)</p> <p>② 精神障害作業療法臨床見学 (a. 実習施設における作業療法(士)の役割と機能を学ぶ。b. 対象者に関する行動観察、対象者とのコミュニケーションを通じて対象者の全体像を把握する。c. 専門職として意識の育成を図る。)</p> <p>③ 発達障害作業療法臨床見学 (a. 実習施設における作業療法(士)の役割と機能を学ぶ。b. 障害児との遊びなどを通して接する機会を持つ。c. 専門職として意識の育成を図る。)</p> <p>④ 老年期作業療法臨床見学 (a. 実習施設における作業療法(士)の役割と機能を学ぶ。b. 高齢者と接する機会を持ち、高齢者の全体像を把握する。c. 専門職として意識の育成を図る。)</p>
臨床実習 I 後セミナー (オリエンテーションを含む)	臨床実習 I の目的と実習時のデイリーノートの書き方、実習指導者への口頭報告のしかた等のオリエンテーションと実習後に実習で体験した内容を報告会で学生に発表させる。

授業科目名	講義等の内容
臨床実習Ⅱ	<p>実習先指導者の指導のもと、病院・施設において身体的疾患、精神的疾患、発達の疾患ならびに老年期疾患を対象に問診及び諸検査測定を実施し、各疾患の症状や徴候について理解するとともに機能評価を行う手順を学び、機能評価を正確に行う。更に、症状別に治療・訓練技術を学びこれらの統合としての治療・訓練計画を立案する。</p> <p>①問診や過去の病歴などの情報を集める。②諸検査測定を実施し症状や徴候を理解する。③検査結果をもとに症状・徴候と検査結果を統合して機能評価を行う。④治療・訓練計画を立案する。⑤患者との意思疎通を十分に果たせるようにする。⑥実習先指導者に対する報告及び指導に対して、確実に反応できるようにする。</p> <p>各障害別実習目標</p> <p>① 身体障害作業療法評価実習 (a. 実習施設における作業療法(士)の役割と機能を学ぶ。b. 対象者の全体像を把握するため、必要な情報の収集と基本的な検査法・測定法を選択し、実施できるように経験を積む。c. 情報を総合的にまとめ、その結果に基づき問題点を提示し、治療・訓練・訓練目標を設定する。d. 治療・訓練・訓練目標に基づき治療・訓練・訓練計画を立案する。e. 専門職として意識の育成を図る。)</p> <p>② 精神障害作業療法評価実習 (a. 実習施設における作業療法(士)の役割と機能を学ぶ。b. 対象者に関する情報収集、行動観察、対象者とのコミュニケーション、検査法・測定法を選択し可能な限り対象者の全体像を把握する。c. 情報を総合的にまとめ、その結果に基づき問題点を提示し、治療・訓練・訓練目標を設定する。d. 治療・訓練・訓練目標に基づき治療・訓練・訓練計画を立案する。e. 専門職として意識の育成を図る。)</p> <p>③ 発達障害作業療法評価実習 (a. 実習施設における作業療法(士)の役割と機能を学ぶ。b. 対象者の全体像を把握するため、必要な情報の収集と基本的な検査法・測定法を選択し、実施できるように経験を積む。c. 情報を総合的にまとめ、その結果に基づき問題点を提示し、治療・訓練目標を設定する。d. 治療・訓練目標に基づき治療・訓練計画を立案する。e. 専門職として意識の育成を図る。)</p> <p>④ 老年期作業療法評価実習 (a. 実習施設における作業療法(士)の役割と機能を学ぶ。b. 対象者の全体像を把握するため、必要な情報の収集と基本的な検査法・測定法を選択し、実施できるように経験を積む。c. 情報を総合的にまとめ、その結果に基づき問題点を提示し、治療・訓練目標を設定する。d. 治療・訓練目標に基づき治療・訓練計画を立案する。e. 専門職として意識の育成を図る。)</p>

授業科目名	講義等の内容
臨床実習Ⅱ後セミナー (オリエンテーションを含む)	臨床実習Ⅱの目的と実習時のデイリーノートの書き方、実習指導者への口頭報告のしかた、評価の進め方等のオリエンテーションと実習後に実習で行った患者の評価と立案した治療計画を報告会で学生に発表させる。
臨床実習Ⅲ	<p>実習指導者の指導のもと、各病院・施設で行った臨床見学、臨床実習Ⅰ・Ⅱの総括的実習を行う。各疾患を対象に身体的・社会的状況などを包括した作業療法全般について評価から治療・訓練まで一貫した形態で総合実習を行う。治療・訓練効果を分析し再評価を行い、補完する治療・訓練計画と作業療法技術を広く習得する。①問診、検査、評価、治療・訓練計画立案、治療・訓練の実施、再評価、補完的治療・訓練計画まで一連の総合実習を行う。②多様な症状に対する治療・訓練技術の選択と技術の習得について学ぶ。③患者とのコミュニケーションと他専門分野職員との共同した治療・訓練について学ぶ。④症例研究を行う。⑤心身両面から作業療法士としての責任及び技術について十分にコ・メディカルスタッフとして自覚し、一人前の医療人として活躍しえるようにする。⑥評価法、治療・訓練法を学び、病院・施設での治療・訓練と在宅における治療・訓練の関連について理解し地域医療の重要性について認識する。</p> <p>各障害別実習目標（いずれかの障害別実習を総合実習として行い、作業療法の体系的な流れを経験する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 身体障害作業療法総合実習 ② 精神障害作業療法総合実習 ③ 発達障害作業療法総合実習 ④ 老年期作業療法総合実習
臨床実習Ⅲ後セミナー (オリエンテーションを含む)	臨床実習Ⅲの目的と実習の進め方、デイリーノート、実習指導者への報告の仕方についてオリエンテーションを行う。1期終了毎に症例報告をもとに学生に報告会で報告させる。

臨床検査学科の講義等の内容

授業科目名	講義等の内容
人間共生論	<p>人間は太古の昔以来、「独り立ち」することを「大切なこと」として今日まで生きてきた。独り立ちした個人、家族、集団、国家。このことはこれからの21世紀においても変わることなく、「大切なこと」として求め続けられていくことであろう。しかし人間は本来、「共に生きる」存在である。人間は太古の昔以来、人々と「共に生きる」こと、自然と「共に生きる」ことによってはじめて「独り立ち」することも可能であったのである。しかるに人間は「独り立ち」することの魅力に目がくらみ、自らが「共に生きる」存在であることを忘れてしまった。この人間の自らの存在の忘却が、「人間と自然」、「人と人」との関わりの問題など、現代社会の根本的な諸問題を生み出す根源となった。これらの今日的な焦眉の課題を根本的に検討し、「独り立ち」という人類の永遠の願いを一人一人の人間が見事に成就するには、人間が本来「共に生きる」存在であることを改めて思い起こさなければならない。「共に生きる」ことを基盤に据えて「独り立ち」することを問い直しすること。これが21世紀に生きるわれわれの課題なのではなかろうか。「人間共生論」はこの様な問題意識のもとに展開されていく。</p>
人間共生社会論	<p>現代人は、様々な領域で、異質なものと共生を求められている。自然との共生、地域社会との共生、高齢者とその他の世代との共生、障害者と健常者の共生、男女の共生、外国人との共生などである。本講義では、共生とは何であるかという問題意識を踏まえた上で、これまでの固定的な自然観・人間観を問い直し、人間としての自己実現や社会人としての在り方を考える。そして、人と自然が共生する社会の姿、並びに、立場の違う者同士が共生する社会のあり方について考察していく。</p>
心理学概論	<p>臨床、理学、作業等対人専門領域の専攻を旨とする学生の基礎教養となる心理学の概説である。心理学の歴史をはじめ、心理学各分野の基礎理論・代表的トピックおよび人間と心理学の関係について、全般的・総論的な理解を旨とする。</p>
文章作法	<p>文章表現に必要な基礎知識・技術を学ぶ。特に、理科系の作文技術を重点に置き、論理的な文章かつ分かりやすく簡潔な文章を目的とする。メモ・レポート・記録文・説明文・報告文・論文など、大学や職場など実際の生活の中で必要な文章を書く方法を身につける。また、内容のある文章を書くために一般教養となる、優れた文章や新聞記事などに多く触れる。</p>

授業科目名	講義等の内容
生命科学 (生命倫理)	<p>本講義で前半で、私たち人間自身を生物学的に知ることを目的として、特に保健医療技術学部の学生が、これからの世の中で活躍していく上で、有用と考えられる分野を精選して解説する。最近のトピックスを導入して、その背景から基礎までを解説する方向で展開していくことにしたい。後半は、古くからある多様な死生観を踏まえ、病者、家族も含めて、人工授精、体外受精、臓器移植や脳死、安楽死、尊厳死などの現状と倫理的課題を考える。障害者の尊厳についても触れる。生命と人格の尊厳に基づく愛、性、幸福、死の在り方を見つめ、自然環境を含めた生命あるすべてのものへの関心を高めていく。</p>
人間の歴史	<p>旧世界における古代文明の興亡について論述する。各文明に通用あるいは特有の重要テーマを掘り下げたい。(1)石器時代、(2)文明の起源(メソポタミア文明・エジプト文明・インダス文明・中国文明)、(3)金属の歴史、(4)文字の歴史、(5)死と墓(古代エジプトの死と墓・ギルガメッシュ叙事詩にみるシュメル人の死)、(6)馬と戦争、(7)帝国の時代(最古の帝国アケメネス朝ペルシャ・アレクサンドロスの東征とヘレニズム世界の成立・地中海帝国ローマと東方・匈奴と秦漢帝国)、(8)古代史探求の方法</p>
数学	<p>臨床検査は角度を変えると患者情報を扱う分野ともいえる。したがって、日々のデータ整理や集計をはじめ、上司への研究報告、学会や論文発表においても数学的手法を用いることが多い。</p> <p>本講義では、単なる計算のための数学ではなく、将来、臨床検査の職に就いたときに役に立つ、生きた数学の授業にしたいと考えている。したがって、大学の専門課程で学ぶような複雑な専門数学とは異なり、データ解析を念頭に入れた、統計学につながる講義内容を目指したい。たとえば、データの正規変換や線形化によく用いられる、指数・対数、回帰分析や線形判別分析に必要な行列、行列式、また、微分による最小二乗原理、定積分による正規分布の確率の計算などである。そのため、当然のことであるが基本的な計算の演習など、高校で学習した内容をベースに授業を進める予定である。</p>
統計学	<p>本講義の目標は、統計の基礎知識を与えるとともに、実際の問題解決にあたって、いかに統計を用いて問題を明らかにしていくか、応用力を身につけることを目標とする。講義の内容は、①統計の基礎、標本抽出、②平均値、統計図表、度数分布、③正規分布・正規確率、④分散、⑤推定と検定、⑥質的データの扱い、⑦相関関数・将来予測、⑧疫学調査法、⑨統計演習である。</p>

授業科目名	講義等の内容
物理学	医療の世界においても、治療に際して起きる現象あるいは治療的技術の多くの部分は科学的知識を基盤として成り立っている。本講義では応用できる物理学の知識を得ることと科学的な思考のための方法論を修得することを目標として講義を行う。
化学（無機・有機）	化学の基礎事項は臨床検査の専門科目を理解する上にも、また臨床医学の現場に出たときの業務にも直結する重要な事項である。中学校、高等学校で学んだ化学の知識を基に、医学の専門分野を理解するのに必要な化学知識を習得することを目的とする。以下に授業内容を示す。1)物質の構造では原子と分子、原子の構造。2)物質の状態では気体、液体、固体、溶液、コロイドについて。3)物質の変化では、化学変化、化学反応の種類、反応速度、化学平衡について。4)無機化学では元素の分類、非金属、金属の化学、配位化合物、原子核反応について。5)有機化学では有機化合物を構成する元素、構造、特性、有機化合物の官能基、生体の化学成分について。
化学実習（無機・有機）	<p>化学実習では実験の基礎的操作を習熟し、種々の化学反応を体験する。さらに、物質の定性分析や定量分析を行い、化学の基礎事項の理解を確実のものにする。実習内容は、1)実習に当たっての注意事項、2)器具、薬品の種類とその扱い方、危険薬品の取り扱い方と注意、3)実験データのまとめ方、4)無機定性分析では陽イオン分析と陰イオン分析、5)無機定量分析では各種滴定分析、6)有機定性分析では一般的な検出反応、濾紙クロマトグラフィー法、薄層クロマトグラフィー法である。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(70 金森きよ子) 無機化学</p> <p>(68 下村弘治) 有機化学</p>
生物学	生物学は具体的な生命の科学であり、特に人に関わる医療・福祉職にとっては、専門基礎分野科目（解剖学・生理学・病理学など）を学ぶためにこの基礎科目を修得しておくことが大切である。本科目はこれまでに生物の履修経験のない学生についても考慮し、生物学の基礎知識を整理して、講義を行う。
分子生物学	遺伝の情報がどのように発現され、調節されているのかというメカニズムを分子レベルで学ぶ。つまり遺伝情報の発現・制御からタンパク質の合成に至る機構、突然変異が生ずる機序について解説する。また、細胞の形質転換、遺伝子増幅、遺伝子変異の解説、塩基配列の解析など遺伝子工学に必要な基本的知識と原理について説明する。

授業科目名	講義等の内容
医療心理学	医療人として必須かつ実際に役立つ心理学、特に応用心理学の一分野である医療心理学についての基礎的事項について学習する。主として、対人関係において、相手（自分も含めて）の行動意味を理解するために必要な心理学的知識を学ぶ。
医療経済学	今日、医療については、医療費増大や医療過誤などいろいろな問題がある。しかし、それを医療の世界のみで考えるのではなく、別の視点から眺めてみると、なぜこういうことが起きるのかという分析ができ、その問題点や解決策が見えてくることがある。そこで、本講義では医療に関する様々な問題点を「経済学」という視点から医療を捉え、講義を行う。
人間関係論	人は生まれつき、社会的な生き物である。客観的な判断をしようとするときでも自分に思いをはせるときでも、気づかないうちに他者は私たちに影響を与えている。一方、私たち自身も、意識的・無意識的に他者に特定の印象をもたれようとしたり、他者とうまくやっっていこうとしたりする。この講義では私たちのこうした社会的な性質を理解したうえで、具体的な人間関係がどのように営まれているか概説する。また、個々の人間関係を越えた集団が私たちの人間関係にどのような影響を与えているかについても概説する。(1)社会的生物としての人間、(2)人と世界を理解する、(3)個人と社会をつなぐ自己、(4)社会的影響、(5)様々な人間関係、(6)集団の心理
人間関係論実習	コミュニケーションは単に通信、交通、意思の疎通の手段のみに留まらず、人格そのものであると考える。自分の意思を伝達するには、会話だけでなく、ボディランゲージ、フェイスランゲージ、服装、ヘアースタイル、メイクアップなど全てを含めた個人の表現方法を用いる。社会人として不可欠な知識と基本的なビジネスマナーを修得し、自己表現力を磨き、企業内の人間関係をスムーズに保つためのコミュニケーション能力を身につけるのは、自分自身を高めるための必須条件である。これらについて解説し実習を行う。
保健体育学	生涯スポーツの時代における体育・スポーツ活動の意義について理解し実践できる能力を養う。そのために、体育スポーツに関する科学的領域から行政・制度的領域まで幅広く学習する。(実習を含める)

授業科目名	講義等の内容
社会貢献実習	<p>地域を基盤とする実践活動に参加し、その活動の趣旨、企画・運営・利用者の特徴とニーズ、今後の課題などについて理解する。各専門分野の枠を超え、集団または個人に対する各種地域サービスの実験を体験することにより、他職種間での相互理解と協力の必要性を学ぶ。その活動状況や定期的に提出を要請されるレポートなどを総合的に評価して、成績評価を行う。</p>
英語 I	<p>This class is designed to motivate the students in their English study, encourage confidence in their English ability, review basic structures, and give students the tools to express themselves. Speaking, listening and reading skills are practiced, all with an emphasis on interaction and communication. Students are encouraged to be active participants in their own learning process.</p> <p>英語学習に対するモチベーションを与える。各自の語学能力に自信もたせる。基礎的な構文の復習、自己表現の手段としての英語学習を行う。コミュニケーションに重点をおいて、話す・聞く・読むスキルを練習する。学生の積極的な参加姿勢が期待される。</p>
英語 II	<p>This class is designed to motivate the students in their English study, encourage confidence in their English ability, develop the ability to express opinions, review basic structures. Discussion, listening and reading skills are practiced, all with an emphasis on interaction and communication. Students focus more on functions and language to help convey feelings and opinions. Students are encouraged to be active participants in their own learning process.</p> <p>英語学習に対するモチベーションを与える。各自の語学能力に自信もたせる。意見を発表する能力を伸ばす、基礎的な構文の復習を行う。コミュニケーションに重点を置いて、ディスカッション・リスニング・リーディングスキルを練習する。特に機能的表現、感情や意見を伝えるための表現に焦点を合わせる。学生の積極的な参加姿勢が期待される。</p>
医学英語演習 I	<p>医学関連の英文を読むことを通じて英語力と医学に関する知識を養う。専門科目の文献を訳すことにより、英語とその専門科目の両方を学ぶことが出来る。数日前に宿題として渡された文献の訳を事前にレポートとして提出する方式で講義を行う。</p>

授業科目名	講義等の内容
医学英語演習Ⅱ	<p>医学関連の英文を読むことを通じて英語力と医学に関する知識を養う。医療専門科目の文献を訳すことにより、英語とその医療専門分野の両方を学ぶことが出来る。数日前に宿題として渡された文献の訳を事前にレポートとして提出する方式で講義を行う。</p>
海外異文化理解・研究Ⅰ	<p>この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1セメスター、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で正規の授業を履修する留学（正規学部留学）で、外国での留学中の学習状況および帰国後、留学先での興味・関心のあるテーマを各自が設定し調査研究を行ったレポートを総合的に評価する。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。</p>
海外セメスター語学研修Ⅰ	<p>この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1セメスター、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で語学研修プログラムを履修する留学（語学研修留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。</p>
海外異文化理解・研究Ⅱ	<p>この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1セメスター、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で正規の授業を履修する留学（正規学部留学）で、外国での留学中の学習状況および帰国後、留学先での興味・関心のあるテーマを各自が設定し調査研究を行ったレポートを総合的に評価する。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。</p>

授業科目名	講義等の内容
海外セメスター語学研修Ⅱ	この科目は、原則として、選抜された本学学生が、1年間もしくは1セメスター、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で語学研修プログラムを履修する留学（語学研修留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外語学（英語）研修Ⅰ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（英語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外語学（英語）研修Ⅱ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（英語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外語学（該当英語外）研修Ⅰ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（該当語学短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。

授業科目名	講義等の内容
海外語学（該当英語外）研修Ⅱ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（該当語学短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外語学（中国語）研修Ⅰ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（中国語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
海外語学（中国語）研修Ⅱ	この科目は、本学と提携関係にある指定の外国の大学等で、休暇中4週間程度の語学研修プログラムに参加する留学（中国語短期留学）で、外国での留学中の学習状況およびその評価（留学先からの成績表および修了証）を基準に、帰国後、総合的に評価をする。事前指導、留学中の遠隔地指導、帰国後の事後指導を行なう。保健医療技術学部においては、語学の学習とともに医療情報に関するテーマを設定し、留学中に調査研究しレポートを纏めることになる。
解剖学	人体を構成する細胞から器官にいたる各単位について、系統的にそれらの基本的な形態と構造について学ぶ。さらに生体を構成する組織、器官及び気管系の成り立ちを学ぶ。人体解剖学実習見学において、人体の器官や構造物の配置を確認する。
解剖学実習	組織・細胞のレベルから生体の構造を理解させるため、ヒトの諸組織の標本を顕微鏡で観察し、微細構造について学ぶ。人体解剖学実習見学において、実習人体解剖からヒト全身の器官や構造物の成り立ちや配置を学ぶ。

授業科目名	講義等の内容
生理学	<p>本講義の目標は、生理学的な考え方で生体に対処できる人を作ること。具体的には生理学を理解し、生理学的な考察のできる計画を立てられ、得られた結果を生理学用語を用いて表現できることを目標とする。体液と血液、循環、呼吸、消化と吸収、代謝及び栄養、尿の生成と排泄、体温とその調節、内分泌、生殖、防御機構、刺激と興奮、末梢神経細胞の分類と特性、接合部と受容器、脊髄反射・脊髄反射と脊髄ショック、脳幹と小脳・視床下部と大脳辺縁系、視覚と聴覚、感覚投射系、皮膚感覚と平衡感覚、運動系、高次中枢機能を講義する。</p>
生化学	<p>生命現象の本質的な部分について体系的に、しかも生体の機能と構造を分子レベルで理解できるようにする。医療において特に必要な生化学の知識が身につくように教育する。</p>
生化学実習	<p>生化学の領域で用いる各種器具、測定機器の原理、特徴、使用法などを基礎から学ぶ。また、各種器具や測定機器を用いて生体成分の分析を行い、その生体成分の性質などについて実験を通して理解する。</p>
病理学	<p>疾病の本態を解明する学問である。疾病病変の共通の変化を論じ、病態生理および病変の主要因について系統的に把握、理解する。各論では主な疾病についてその成因、臓器変化ならびに疾病の診断や病因・病態の解明に必要な病理学的検査法について教授する。この学習を通して疾病の本態を理解し、医学・医療の基本的知識・思考が習得されることを目標とする。</p>
微生物学	<p>微生物、特に細菌、ウイルス、リケッチア、クラミジア真菌などの病原微生物を中心として、分類、性状、代謝、遺伝と変異、消毒と滅菌、化学療法、感染と免疫などについて学ぶ。感染症についてもその概略を説明する。これらの教育内容は、微生物検査学の講義および実習の基礎的な事項である。</p>
血液学	<p>総論として、血液の産生（造血）と崩壊、血液の成分と機能について概説する。各論として、赤血球・白血球・血小板については形態・機能を、止血・凝固線溶系についてはその機能を解説する。赤血球系、白血球系、出血・凝固系疾患の病態生理を理解する。</p>

授業科目名	講義等の内容
免疫学	<p>免疫学では免疫学の基礎的事項について解説し、理解させることに努める。生体の防御機構の中で最も重要な役割を担っている免疫現象の位置づけおよびそれに有益な免疫現象と有害な免疫現象があることを認識させた上で免疫学の総論を講義する。免疫に関する免疫組織と免疫関連細胞の役割、抗原と免疫応答（体液性免疫、細胞性免疫）の機序、免疫グロブリンの構造・クラス・サブクラス・抗原性・機能・性状、補体とその反応、抗体と補体の関係、ポリクローナル抗体とモノクローナル抗体、サイトカイン等について理解させる。</p>
公衆衛生学	<p>集団を対象にした、健康の保持、増進、障害・疾病予防等を学ぶ。これらの成り立ち、仕組み等を熟知し、その対処法を学ぶ。これらは自身の実生活で活用でき、しかも医療チームの一員として活用、指導できるまでを求める。そのためには対象、疫学、人口静態、人口動態（出生、死亡等）、環境衛生（空気、上下水等）、学校衛生、労働衛生、環境保全、食品衛生、母子保健、感染症予防、精神保健、老人保健、社会保障・福祉・医療、保険等にわたり、過去・現在・将来を学ばなければならない。</p>
公衆衛生学実習	<p>公衆衛生学実習は、検査技術を学ぶものではなく（微生物学実習、化学実習等で習得済み）、検査結果を公衆衛生的に考察することを学ぶ。意義あるものにするためには、学生自身に検査対象、方法等に工夫が求められる。この限られた時間内でもその一端を学び、以後種々の場面で応用できるようにする。環境衛生検査（空気、水質等）、食品衛生検査等が主体となる。</p>
医学概論	<p>医療従事者として必要な基礎知識を習得し、医学・医療とは何かを理解し、社会情勢の変化を考慮して医学医療のあり方を考える力、高い倫理観と医療に携わるにふさわしい感性を養う。</p>
保健医療福祉総論	<p>全ての国民の健康保持増進をはかるための我が国の保健・医療・福祉制度について学ぶ。これを通して医療従事者としての役割を理解し、医療チームの一員として十分機能し得る人材の育成を目的とする。医療過誤についても学ぶ。</p>

授業科目名	講義等の内容
医用工学概論	<p>現代の医療は各種の検査・診断・治療の局面において様々な機器によって支援されている。産業との関連から発展してきた工学理論と技術が医療に取り入れられて生まれたものが医用機器であり、医用材料である。医用工学は理学・工学の理論や方法・技術に基礎をおいた医学との境界領域として、電子情報・通信・システム工学、コンピュータ工学などにこれが支えられている。本講義ではこの分野で特徴的な概念や技術を理解するとともに、各種機能の実現に不可欠なデバイスや機器を概観し見識を深め、メカトロニクスの応用分野としての理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(90 若松秀俊) 工学理論</p> <p>(71 石田明允) 技術</p>
情報科学	<p>医学・医療の分野において、情報科学が体系化された背景を理解させる。さらに、コンピュータとそのネットワークの仕組みや、ITを利用した情報処理技術のおおまかな成り立ちを理解させる。①情報処理の基礎概念、情報の定量的取り扱いや、コンピュータ内部での情報表現、暗号化技術、②システムを構成するハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの構造や機能、③システム全体の一般的構造、開発手順、④医療への応用の現状などについて講義する。</p>
情報科学実習	<p>本講義の目標は、パーソナルコンピュータを用いて、学習上必要な文書の作成、データ分析、プレゼンテーションの基礎技能を身につける。講義の内容は、①MS-Word 講義・演習、②MS-Excel 講義・演習、③MS-PowerPoint 講義・演習である。</p>
臨床医学総論	<p>疾患の成り立ち、各疾患の病態や特徴を学ぶ。臓器別にみた疾患の成因、病態生理、症状、治療、診断、経過、予後のあらましについて、チーム医療に参加するという立場から、臨床検査技師に必要な臨床医学に関する基本的知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(66 古谷信彦) 感染症、呼吸器・消化器、肝/胆/膵疾患</p> <p>(62 工藤秀機) 血液・内分泌・心/循環器疾患、代謝・栄養障害、その他の疾患</p>

授業科目名	講義等の内容
臨床病理学	<p>臨床の現場では、臨床所見と検査所見との組み合わせによって、総合的な判断のもとに、各種疾患の診断が行われる。代表的な疾患についての概略と、診断上必要な臨床検査項目について説明し、疾患と検査との関連について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(66 古谷信彦) 感染症系、消化管系、呼吸器系、肝/胆/膵疾患系の検査など</p> <p>(62 工藤秀機) 血液・造血器系・出血性素因、内分泌系、心/循環器系、代謝・栄養異常、悪性腫瘍、アレルギー性疾患・免疫病・膠原病、その他の疾患など</p>
病態解析学演習	<p>検査からみた疾患のメカニズムについて学ぶ。毎回各疾患の専門家による特別講義として、R-CPC形式で行う。事前に検査データが宿題として提示され、それから疾患を推定し、レポートを提出する。講義の当日、レポートを訂正し、再度提出する。検査と疾患の関係に対する理解がより深まることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(66 古谷信彦) 感染症系、消化管系、呼吸器系、肝/胆/膵疾患系の検査など</p> <p>(62 工藤秀機) 血液・造血器系・出血性素因、内分泌系、心/循環器系、代謝・栄養異常、悪性腫瘍、アレルギー性疾患・免疫病・膠原病、その他の疾患など</p>
病理検査学	<p>病理学で勉強したことを踏まえて、病理学的検査法の基本的な意義、役割、方法論を学ぶ。病理組織標本や特殊染色標本の意義、原理、作製法を理解する。さらには免疫組織学的検査法や凍結切片作成法について学ぶ。</p>
病理検査学実習Ⅰ	<p>病理的検査の意義と目的を理解するとともに病理検査の基本的技術を習得する。病変組織の検査法として、組織の切り出し、固定、パラフィン包埋、薄切の実習を行い、薄切標本について各種の染色法を行う。</p>
病理検査学実習Ⅱ	<p>病理的検査の意義と目的を理解するとともに病理検査の基本的技術を習得する。病変組織の検査法として、免疫組織学的検査法や凍結切片作成法、細胞診検査法についても実習する。</p>

授業科目名	講義等の内容
細胞検査学	肺、子宮、尿路系、体腔などにおける剥離細胞および諸臓器組織からの穿刺によって採取された細胞の正常および病的な構造を理解するとともに、それらの形態的变化と病態との関係のスクリーニング法について学ぶ。
血液検査学	血液学で学んだことを基礎に、代表的な血液疾患（赤血球系、白血球系、出血・凝固線溶系疾患）についてその病態生理を理解するとともに、その診断に有用な各種検査法について学び、診断・治療・経過における血液検査学の意義を習得する。
血液検査学実習 I	血液疾患診断のための基本的かつ必須の血液検査技術からより高度な診断技術を習得する。血液検査の基本とともに、日進月歩の新しい知識や技術に対応できる応用力・理解力が習得されることを目標とする。I では基本的な検査法と採血手技を学び、自分の血液を用い、正常範囲内にあるか判断する。
血液検査学実習 II	血液疾患診断のための基本的かつ必須の血液検査技術からより高度な診断技術を習得する。血液検査の基本とともに、日進月歩の新しい知識や技術に対応できる応用力・理解力が習得されることを目標とする。II においては、病的細胞の鑑別、止血・凝固線溶系の特殊検査についても学習し、疾患との関連について理解する。
染色体検査学	染色体の基礎から始まり、遺伝子の担体としての染色体の検査法など染色体検査学の基礎となるべき知識をしっかりと学習した後、様々な染色体検査法とその利用、染色体異常の記載法と種々の染色体異常症候群、出生前診断法について学び、遺伝カウンセリングや倫理的問題に関しても学習する。
医動物学（含む実習）	国内で問題となる寄生虫や衛生害虫を中心として講義・実習を行う。近年は、熱帯地域の開発途上国で働く人や、自然を求める旅行者も増えている。これらの人々が感染する可能性のあるマラリア、赤痢アメーバ、ランブル鞭毛虫などの寄生虫症やデング熱のようなウイルス性感染症、特に輸入感染症の問題についても正しい知識を与える様な講義・実習を行う。この他新興感染症や AIDS や臓器移植などによる免疫不全により発症するトキソプラズマ症、糞線虫症などについても講義する。
臨床化学検査学 I	基礎的な生化学の延長上に位置する臨床化学は血液や尿をはじめ体液化学成分の変動と病態との密接な関係を学ぶ学問である。臨床化学 I では、実際の医療の現場で使用されている測定方法の原理を十分理解し、体液化学成分と病態との関連を知るための基礎知識を教育する。

授業科目名	講義等の内容
臨床化学検査学Ⅱ	臨床検査項目として、疾病の早期発見、診断、経過観察に使われている各種の化学成分について、生理的意義、測定法、基準値、臨床的意義などをきめ細かく教育する。臨床化学検査が患者診療に果たす意義の重要性を十分理解してもらえるよう教育する。
臨床化学検査学実習Ⅰ	血液や尿をはじめ、体液中の化学成分を実際の医療の現場で用いられる測定方法で定量することにより、測定方法の原理、特徴、精度、正確性などについて理解する。それとともに臨床検体を扱う場合を想定した実習を行い、検体の基本的取扱法や感染防止法についても理解する。
臨床化学検査学実習Ⅱ	臨床検体による血液、尿、その他に含まれる各種の化学成分を生化学的方法で定量することにより、患者診療に有用な計測情報を得る実践的手法を修得できるよう教育する。
核医学検査学（含む実習）	放射性同位元素の物理的性質等の基礎的な知識及び放射線測定装置をはじめ臨床現場における機材の測定原理、使用方法、放射性物質の安全管理について学ぶ。実験施設を見学し、放射性同位元素の取り扱いや安全管理等について実習する。
一般検査学	臨床検査の一般的な概念、チーム医療の中での臨床検査技師の役割と使命、心構え等を理解させる。種々の臨床検査に共通な基礎的知識と、臨床検査診断の基礎である尿、便、脳脊髄液、その他の体液の生成過程やスクリーニング検査法、検査結果と病態との関連性についての理論を学ぶ。
一般検査学実習	<p>一般検査学総論の講義で得た知識をもとに、実際に臨床の場で測定できる技術を習得する。採血方法や尿検査、糞便検査、髄液検査などの定性検査での正確な判断基準を修得する。採血実習では、お互いに患者となり、正しい採血法を知るとともに、検体の大切さを理解させる。</p> <p>（オムニバス方式） （70 金森きよ子）尿検査 （69 鈴木敏恵）採決法、糞便検査、髄液検査、その他</p>
遺伝子検査学	<p>病気の原因には遺伝要因と環境要因がある。遺伝要因はすなわち遺伝子の異常であり、環境要因には病原性細菌やウイルス、ストレス、環境汚染物質、生活習慣など様々な要因がある。遺伝子検査は病気の原因を遺伝子レベルで明らかにする検査技術であり、遺伝性疾患（遺伝病）、細菌ウイルスによる感染症あるいは悪性腫瘍などの病気を分子生物学や遺伝子工学を基礎として迅速かつ的確に診断するための検査である。本講義では遺伝子検査の倫理的な側面と共に基本的な検査原理を学ぶ。</p>

授業科目名	講義等の内容
遺伝子検査学実習	分子生物学と生化学を基に遺伝子の構造と疾患との関連を学ぶ。遺伝子解析・検査法を修得する。具体的には、DNA・RNAの取り扱い方、電気泳動法、制限酵素処理及びPCR法、塩基配列解析等の分子生物学の基礎的手技を理解する。また、疾患関連遺伝子異常の検出法をどうして様々な遺伝子解析法の原理を理解する。ヒト遺伝子情報の倫理的取り扱いについても学ぶ。更に研究者を希望する学生にも配慮し、大腸菌への遺伝子導入、変異導入、リコンビナントタンパク質の合成法も実施する。
微生物検査学	微生物学で勉強したことをもとに、感染症の原因である各種病原体（細菌、真菌、ウイルス）について、それらの検査に必要な特徴、ならびに性質などを総合的に理解させる。
微生物検査学実習 I	微生物の取り扱いに必要な基本的な考え方や手技、感染防御法を身につける。培養の基礎、同定のための基本的手技を習得した上で、実際に細菌同定を行い、一連の操作（染色所見、分離培養所見、生化学的性状、免疫学的反応）などについて理解を深める。
微生物検査学実習 II	感染症の診断・治療に寄与しうるような微生物学的検査法を中心に実習を行う。臨床検体の採取法、検体からの微生物（細菌、真菌、ウイルス）の分離・同定、迅速診断、薬剤感受性試験などを経験し、それぞれの検査法の特徴を理解する。
免疫検査学	臨床検査技師が担当する臨床免疫学領域の輸血、感染症、自己免疫疾患、アレルギー性疾患、移植免疫、腫瘍免疫、血清蛋白および免疫機能検査等の理論と検査方法について講義を行う。これらの講義は免疫学で講義した抗原、抗体、体液性免疫、細胞性免疫、幼齢と老年者の免疫機能、細菌・ウイルス感染に対する免疫学的防御機構ならびに抗体の応用などを基礎として各論について解説を行う。これらの中には生命および人権に直接関わる重大な責務を有している検査法があることを十分に認識させることに努める。

授業科目名	講義等の内容
免疫検査学実習	<p>免疫検査学実習で取り扱う検査法は多岐にわたるので、各種免疫的検査項目のうち特に重要な項目および反応形式の異なる項目を選択し、それらの反応原理および結果の解釈の仕方を習得させる。すなわち、特に重要であり、検査法を実際に経験させなければならない梅毒および HIV の抗体検査では、反応形式が同じであってもそれらの検査をすべて実施させることに努める。それら以外の検査法は反応形式の異なるものを選択し、主用な検査法とそれらの判定方法を習得させる。本実習では感染防止に万全の注意を払い、さらに誤った結果の判定が生命の危険、人権上の問題を引き起こすことを十分に認識させる。</p>
輸血移植検査学	<p>輸血療法は現代医療にとって重要な治療手技の一つである。輸血の目的、適応、輸血製剤の選択、血液型、その検査法などは是非知っておくべき基本的な知識を学ぶ。具体的には、A B O 式血液型、R h 式血液型及びその他の血液型についてそれらの遺伝形式と共に臨床的意義を理解することを目標とする。更に、輸血用血液製剤の種類、供給方法や保管管理について学ぶ。移植検査学に関しては、移植の可否を左右する組織適合検査である H L A タイピング等の評価法を理解する。</p>
輸血移植検査学実習	<p>輸血・移植検査学講義をふまえ、A B O ・ R h 血液型、不規則抗体スクリーニング、直接・間接抗グロブリン試験、交差適合試験等の輸血関連検査の原理及び方法を理解する。これらについては検査室で行われる検査順序にあわせて実習をすすめ、最終的に適合血を得る方法を理解する。移植検査については組織適合検査、H L A タイピング、リンパ球直接クロスマッチ、同種抗体検査; P R A 検査および AMS (Antibody Magnitude Score) による評価法を学ぶ。それらの反応原理および結果の解釈の仕方を習得させる。</p>
生理検査学	<p>生体の生理的機能を評価する手段である生理学的検査法について、その理論と臨床的意義、各検査法、結果の分析と評価法についての理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(65 福澤 等) 神経・筋機能検査 (脳波)</p> <p>(73 川良徳弘) 循環機能検査 (心電図、心音図、脈波)</p> <p>(82 東條尚子) 呼吸機能検査 (換気機能、肺泡換気機能)</p> <p>(84 永山 寛) 神経・筋機能 (筋電図)</p> <p>他、特別講義にて聴力検査や平衡機能検査などについて学ぶ。</p>

授業科目名	講義等の内容
生理検査学実習 I	循環器系ならびに呼吸器系の生理機能検査について、機器の取扱法、その実技を指導し、合わせ得られた結果の分析・評価について学習し、さらに検査機器の保守管理などについて実習する。また患者の接遇法についても学ぶ。
生理検査学実習 II	脳・神経系、神経・筋系の検査法である脳波検査、筋電図検査について、機器の取り扱いや電極装着法、波形の導出法をマスターし、それらで得られた検査結果の分析・評価法などを実習する。平衡機能検査、聴力検査、眼底検査などについても実習する。
画像検査学	超音波検査、核磁気共鳴画像 (MRI) 検査、熱画像検査、眼底検査 (無散瞳眼底カメラ) など臨床検査技師が行う画像検査について、その理論と臨床的意義、検査法の実際、検査結果の分析や評価法について学習する。
画像検査学実習	心臓および腹部超音波検査法について、機器の取り扱いや標準的な画像の描出法、検査結果の評価法を実習する。さらに臨床検査技師が実施することが出来る熱画像検査、無散瞳眼底カメラなどの生理検査について、機器の取り扱いや操作法、結果の分析と評価法を実習する。
検査管理総論	信頼性の高い臨床検査を行う臨床検査部門の検査体制、業務管理はどのようなになっているか、また病院で臨床検査技師の専門性をいかに発揮するかを学ぶ。授業内容は 1) 病院の概要と検査部門の役割、2) 検査部門の組織と人事管理、業務内容とその管理、3) 物品管理、機器管理、収支管理、4) 検体管理、検査成績管理、検査システム管理、5) 各種検査マニュアルの管理、6) 電気、医療ガス、試薬の安全管理、消火器の管理、7) 廃棄物管理、感染予防、健康管理、8) 検査事故管理、検査過誤管理、9) 病院や医療施設、医療機関等における感染や安全管理の内容を含めたリスクマネジメント等に関して講義し学生に十分理解をさせる。
精度管理論	臨床検査の精度管理は国際的な検査の標準化の活動で体系化されてきた。精度管理は単に測定の部分の管理でなく、検査の工程を全て含む臨床検査全体の管理、即ち検査の精度保証を行うことになっている。臨床検査技師として重要な臨床検査精度管理について学ぶ。授業内容は 1) 精度管理の概念、2) 精度管理に用いる用語と計算式、3) 誤差の許容限界、4) 内部精度管理、外部精度管理、精度管理用試料、5) 各検査領域別の精度管理、6) 検査室で行う精度管理の規格、ISO、CAP など、7) 検査方法の選択と適合性の評価、8) 基準範囲の求め方、9) 臨床的有用性の評価、感度と特異度、病態識別値などである。

授業科目名	講義等の内容
医療情報管理学	今日の医療の発展は、その多くがコンピュータや情報技術の発展によっていると言える。コンピュータを利用した医療技術や患者を中心とした医療情報の管理について学ぶ。授業内容は1)患者識別(ID)システムと情報の保護システム、2)診療とその情報の流れ、3)病院情報システムとオーダリングシステム、4)臨床検査部門システムと各部門システム、5)画像処理システム、6)電子カルテシステム、7)診療支援システム、診療チェックシステム、8)診療報酬計算システム、9)医療情報の共有と地域医療情報システム、遠隔医療システム、10)医療情報の公開などである。
臨床検査総合演習	4年間の総仕上げとして、各分野の専門家による特別講義を含む生涯教育を行うとともに、臨床検査学全般にわたる科目について知識を整理し、確実に身につけることを目標とし、総合試験により確認する。
医療情報処理演習Ⅰ	データの処理法やレポートの作成など医療情報処理の基礎となる事項について学び、コンピュータの利用に慣れ、医療情報処理に関する理解を深めることを目標とし、実習と講義を行う。
医療情報処理演習Ⅱ	医学・医療の分野において情報科学が体系化された経緯や背景を理解させる。検査分野における医療情報システムを中心に、ITを利用した医療情報の処理法および医療業務の効率化について学習するとともに、その情報処理の基礎をパソコン操作を通して実習する。
検査機器総論（含む実習）	臨床検査で用いられる主な機器の種類、原理、構造、実際の操作と取り扱い方、保守管理方法について学び、技術を習得する。授業内容として取り上げる機器は1)機器の基礎知識、電気の使用と感電防止、2)各種天秤、3)遠心分離装置、4)恒温装置、冷却装置、攪拌機、5)滅菌装置6)分光光度計、発光分析、蛍光分析、7)各種顕微鏡、8)写真装置、9)pHメーター、10)生化学自動分析装置、免疫化学自動分析装置、電気泳動装置、11)自動血球計数装置、血液凝固測定装置、12)、クロマトグラフィー装置、質量分析装置などである。
救急総論	救急患者の病態と検査項目との関連及び検査データの解析等について学ぶ。検査時の救急場面における検査技師に必要な対応、対処法について学ぶ。また、消防署において上級救命講習を受け、資格を取得する。
関係法規	「臨床検査技師・衛生検査技師等に関する法律」と附属法令を解説し、臨床検査技師の身分・業務に関する法的基盤について講義する。また、医事法規、保健衛生法規等の医療従事者に関わる法規も概説する。健康食品関連の法規についても講義する。

授業科目名	講義等の内容
健康食品総論	多くの健康食品が病気と検査に関する知識が乏しいまま、取り扱われているのが、健康食品をめぐる問題の大きな原因の一つである。健康食品に関する問題を的確に捉えられる人材の育成が急務とされている。そこで臨床検査技師に健康食品に関する知識を持たせることにより、病気、検査、健康食品と系統的な教育を行うものである。
栄養化学	健康の維持・増進や、病気からの回復に栄養は深く関わっている。栄養化学は生化学の一分野であるが、医食同源というごとく、医療に密接に関係する栄養化学を検査という土壌から、さらに深く教育する。
薬理学	現代社会においては「無病息災」ではなく、「一病息災」と言われる。また医療の現場で関わる対象者は何らかの薬物を服用していることが多い。そこで、薬物の体内動態と主作用・副作用の両面から薬物と生体との相互作用について学習し、薬物を主たる治療手段としない医療職の仕事に役立つ基礎および臨床薬理学の知識を習得する。
遺伝学	近年の分子遺伝学および細胞遺伝学の急速な進展により、人類遺伝学は最も進歩が著しい。遺伝学の基礎から、古典の人類遺伝学、新世代の人類遺伝学への解説を行い、医学における遺伝学の意義と重要性を学ぶ。
実験動物学	医学的研究において動物実験は欠かせない研究手段である。そのためには、実験動物を熟知しなければならない。実験動物の特性、実験手技を学ばなければならない。研究目的に適合した動物の選択に始まり、飼育管理、投与、固定、採血、麻酔、ト殺法等を学ぶ。その他に統計処理法、動物疾病、動物福祉、飼育環境モニタリング等学ぶことは多い。
卒業研究	卒業後、業務から得られた情報を基に医療の発展に寄与できるような研究心を養うために行う。検査学および関連分野の研究にふれることによって論文の読み方、研究の進め方、研究報告のまとめ方、口頭発表の仕方等を学び、論理的科学的思考を身につける。日常の講義、実習などからの課題や、指導教官の専門分野などから相談してテーマを決める。
臨地実習	学内での講義、実習で得た知識、技術をより実践的なものにするため、病院の検査部、病理部、輸血部、生理機能センターなどで実習を行う。検査の知識だけでなく、医療チームの一員であることの自覚や臨床検査データの大切さ、病院組織や医療人としての心構えを学ぶために、10単位の時間をもうけてある。